

## 4000 名山記 2014年

1/1(水)尾鷲「八鬼山」6:20~8:30(2:10)林道・熊野古道の交差点より往復。熊野古道の石畳を薄暗い中進む。尾根に出ると初日の出がオレンジに輝き合掌。神社で初詣後さらに進みゴトゴト石のある山頂。樹林の中で展望今一つ。来たルートに戻る。昨日から膝痛で下りは小幅でゆっくり戻る。「天狗倉山」9:05~12:25(3:20)鷲下口より往復。熊野古道の石畳を無理をしつつ淡々と進み馬越峠。さらに尾根伝いに急坂を進むと小さな神社の脇に大きな岩。梯子を上ると山頂。陽光・眺め良い。無理をして尾根伝いに進み(カンカケ山)を経てオチョボ岩で展望楽しみ戻る。下りは膝痛もあり、ゆっくり戻る。「椽山」14:05~15:50(1:45)水無峠より山入り。道らしきとテープ等頼りに植林地を尾根伝いに進み雪がまばらな山頂。三角点、陽射しあるが、冬風冷たい。下りも来たルートをたどったつもりが道を外し、止む無く奥の林道側に下り、林道を10分ほど歩き無事峠に戻る。安易な山歩きへの警鐘か。

その 3 1/2(木)三重南「一族山」7:50~10:50(3:00)布引の滝より遊歩道を往復。入口の神社に寄り、橋を渡り少し進むと登山口。整備された階段を進むが沢筋に入ると荒れて道が不明ながら、何とか進む。なだらかな坂で助かるが、遠回りの気がして途中で尾根に入り少々藪漕ぎ。急坂進むと石積に出て遊歩道に合流。さらに進むと平坦な山頂。二等三角点、樹林の中ながら東側の展望良い。来たルートで膝を庇いつつゆっくり戻る。「子ノ泊山」13:35~16:30(2:55)道の崩壊で浅里ルートがダメで、迂回して桐原口より往復。入口から崩壊地で鉄梯子登り、崩壊しかける沢を跨いで尾根に取りつく。あとは淡々と表示に助けられながら尾根を進み、山頂。一等三角点、陽射し、山・海の眺めよい。両膝痛で、気を遣いながらゆっくり下山。昨日程の膝の腫れはなし。1/3(金)晴れ 和歌山南 「烏帽子山」6:50~14:50(8:00)高田登山口より周回。両膝痛は同じため、ゆっくり歩き。古道らしき杣道を沢の崩壊を注意しながら進む。昭和年代の集落跡の分岐より烏帽子の尾根へ。急坂をゆっくり辿り、一等三角点の山頂。樹間より山々と朝日を楽しむ。さらに奥に進むと大きな岩があり、梯子を登り、烏帽子岩から展望を楽しむ。山頂に戻り、山表示のあった光ヶ峯へ。来た尾根を戻り、途中で地元の人と挨拶。奥に山はあるが、遠回りとの話。分岐に戻り、裾野を沢の崩壊等道を探しつつ進む。何とか木杭峠へ出て尾根伝いに5山目が(光ヶ峯)山頂。三角点、陽光あり、一休み。下りは 3P目より尾根伝いに進み2本杭より左に折れ急坂下り谷に出て少し進むと来た道と合流したので安堵してゆっくり戻る。膝痛での長丁場の歩きでかなり疲れ、帰りの高速道の渋滞予想もあり、今回は好天続きであと1日も好天だが、ここで打ち止め。冬場は、当面両膝の養生か。

3連休で遠征。1/11(土)愛知東1山「駒山」19:25~19:40(0:15)林道終点、廃屋・休憩所より奥に進むとすぐ山頂。樹間より街明かり。寒いためすぐ戻る。手前の散策やまびこコースを歩いての徒労の山探しのため、やむなく夜間登山。1/12(日)岐阜東4山晴れのち曇り「屏風山」7:30~9:50(2:20)常盤コースを往復。檜の展示林の尾根階段を進み、トラバースして鉄塔。尾根を辿り(坊主山、北屏風山)を経て山頂。一等三角点、山・街の眺め、朝日良い。奥に進み(八百山)まで行き戻る。途中鉄塔より見晴らし台(丸山)に寄り、階段は両膝を労わり戻る。「笠置山」10:45~11:50(1:05)望郷の森より遊歩道の階段を経て進むと山頂。夫婦連れに会う。山頂は神社の奥社で、樹林の中。寒いためすぐ戻る。「見行山」13:20~14:05(0:45)登山口わからず、付近の住宅の主人に聞いて、峠近くの林道終点まで車で入る。作業道を終点まで進み、道のない急坂を尾根に出て、高いところを目指す。小藪を漕いで山頂。先行で1人おり食事中。同人も来たルートは正式ルートではない様子。二等三角点。曇りの中の太陽。山々の眺めあり。来たルート辿り戻るも、途中赤テープのルートを確認。ただ、登山口等の案内表示のない山である。「納古山」17:45~19:50(2:05)木和谷中級ルートを往復。隣の峰への間違い登山で2Hロスし、やむなく夜間登山。沢沿いに進み、岩

岩の急斜面は慎重に進み、山頂と思いきや先に山あり、一旦急下降し岩岩を登り返すと山頂。二等三角点、360度の表示案内盤あり、休憩場所もある人気の岩山。山々、街明かり眺めよい。小雪舞う中、下りは、岩岩を両膝を労わりながら慎重にゆっくり下山。遠征のため今回はここまで。これから本格的な雪の時期でアプローチが容易でないため、しばらく冬眠します。

2/1(土)新潟東1山「菅名岳」12:30～17:00(4:30)晴れのち曇り、出足遅れ昼より。大蔵山登山口より周回。林道より階段コース。植林地・ブナ林を尾根伝いに進み、鐘のある(大蔵山)山頂。尾根伝いに先人の雪の踏み跡を辿り、鐘のある菅名岳山頂。平坦な山頂で川内山塊、越後平野の眺めよい。丸山尾根をブナ林を楽しみながら下り、沢・林道を経て戻る。今回は、ここまで。前回で1700山通貨。去年は、年間で山入り120日、341山でこれを超えることができるのだろうか？

2/23(日)新潟東1山「白山」9:55～13:10(3:15)慈光寺口より往復。駐車場に新雪あり。寺への参道を進み、さらに先人の踏み跡を進む。沢を渡り尾根に取り付く。深雪の急坂を固められた雪跡辿りを軽快に登る。合目表示を頼りに尾根筋を進む。下りの人に会い道が間違いないことを確認。なだらかな頂上近辺は雪と風で雪跡不明ながらそれらしきを進み避難小屋。天候今一つだが、満員なので寄らずに平坦な山頂到達。樹氷とホワイトアウトに近い真っ白な風景を確認して下山。この時期に20名程に登る人気の山。下りは軽快に雪とブナ林を楽しみながら戻る。久しぶりの山行で鈍っていた感覚をリハビリ。

3/2(日)新潟東1山「日本平山」曇りのち雪・雨 7:00～16:25(9:25)R17 中山新道コースを往復。前日早出川ダムコースを崖の小道が雪で埋まり、途中から手前のピークに出たが、山頂ははるか先のため撤退。地元の人に教えてもらった別ルートでトライ。長丁場。つぼ足で軟雪に潜りながらも尾根・テープを目安にアップダウンを繰り返し徐々に高度を上げ、(人分山)で一休み。下り、急坂などを夏道等のルートを探しながら進み、広い大雪原に出ると雪と風が出てききた。体力は限界に近くなり、そのピークで遂にワカンをつけ後は軽快に進む。だが行けども頂上は先で逃げ水のように感じられたが、何とか日本平山頂に到着。(積雪数m)真っ白な世界。雪降り、慌しく食事して下山。ワカンを履き、体力的には余裕が出たが、雪続きで視界はわずか。来た足跡を辿り着実に下るも、よくこれだけ歩けた自分にびっくり。久しぶりの山での疲労感を味わう。下るに従い雪が雨に変わり、ワカンにつく氷雪を落としながら戻る。当然この時期は誰にも合わず、静かなブナ林を楽しんだ。違った季節にも歩きたいはるかなる山で、前日の厳しいルートもあり、ライフワークに加えよう。

岐阜北3山 3/22(日)晴れ「丸山」山頂 12:25「芦倉山」同 14:25 大遠征しヤブ山を残雪期にトライ。5:20～17:45(12:25)白山中居神社(石徹白)より白山禅定道をツボ足で進むも、新雪・軟雪で潜り苦戦。滝案内標示の橋を渡り尾根に取りつく。新雪等にハマりながら尾根筋を進む。急坂は慎重に登り片側絶壁の(初河山)山頂。ワカンをつけ下り登り返し 1Pを経て下り登り返すと丸山山頂。平坦な山頂で白山連峰の上は雲隠れ。急斜面を慎重に下り周回ルートのアップダウンの繰り返す。軟雪を避け堅雪を探しつつ進む。芦倉山頂直下は崖と堅い雪の壁。新雪を活用して何とか登り芦倉山山頂。野伏等の山々の眺めよし。山頂にツボ足の跡あり、釣られて進もうとするがルートが違う様子。山頂に戻り、広い尾根筋のルートを下る。ブナ・植林地、急斜面を経て林道に出る。林道も方向感覚不明で、川筋へショートカットし再び林道に出合い、川伝いに下る。軟雪で潜り、体力も消耗激しく苦戦。後ろからスタスタとツボ足の元気な人(芦倉往復)に抜かれ、雪の踏み抜きにつんのめったりしながら何とか無事神社に戻る。久しぶりの疲労感と充実感を味わう。

続き 3/23(月)石徹白のヤブ山「小白山」5:20～12:55(7:35)晴れ やまゆき会 4月例会の下見兼ね歩く。

昨日と同じ神社より和田山まで林道を進む。昨日より人がかなり入り堅雪で軽快に歩く。テント場を横目にダイレクト尾根まで堅い踏み跡に助けられ難く進む。このまま簡単に野伏まで行けそうな気配。今回は行き先が異なるので、尾根よりワカンをつけ、足跡ない雪原を沢筋を迂回しながらトラバース。軟雪に潜りながら、大きな沢を越えた奥の尾根に取りつく。ブナ・堅雪を頼りに、氷の急斜面は木に掴まりながら登り、枝尾根に出る。崩れている処は慎重に進み、広い雪原の(小白山北峰)。ここから小白へは、やせ尾根の難所。新雪の雪庇も加わり、さらにクレバスもできて慎重に進む。天候晴れで風がないことが幸いでゆっくりルートを探しながら進む。山頂直下は、北側の急斜面を避け南側より回り込み小白山山頂。青空・白山連峰等の雪山が360度の大大パノラマ。無事戻れるか？ 慎重にやせ尾根を北峰に戻り、枝尾根伝いに一気に下る。入り組んだ末端の里山のアップダウンを繰り返し三角点のある(杉山)を経て急斜面を2度経て野伏分岐の橋の袂に出て戻る。天候に恵まれ、昨日の疲れもさほど出ず、充実した3日間(初日は遠征と若干の野伏の1Pまでの下見で、冬模様の天気)。

新潟南ヤブ山1山「足拍子岳」9:40～14:50(5:10)一般的には困難な山。高速道路から見えるが、痩せ尾根の岩山。土樽奥の通行止め手前に駐車し、ワカン、ピッケル、アイゼンを持ち出発。ここ2,3日の高温で、雪はグサグサ。ストックとツボ足で、雪にはまりながらゆっくり進む。杉植林地を経て、急斜面を枝線まで上がり、雪のないところを選びつつ上る。木の根元の大きな空洞で幾度か潜る。お化け檜の1Pから山容が現れる。緩やかなブナ林の雪面を長靴に雪が入らない程度の軟雪に潜りながら本尾根へ合流。先行に2人おり、足跡に助けられ一気に上る。木も何もない雪面の急斜面で先行の2人を見つける。ピッケルを出し、足場を確認しつつ、ゆっくり上る。さらに先は岩岩の痩せ尾根。下の雨具をつけ、上は半袖で進むと先行の2人に追いつく。ロープ持参し本格的な岩上り訓練。お先にどうぞの言葉で進むが、先は踏み跡なし。岩・軟雪・急斜面を足場を確保しつつ、木の枝に体重を預けましたが、滑落しないよう、ルートを探して上る。手前のピークに出て一旦下ると別ルートでの大人数が、山頂近くより下りてくる。4,2,1の3組の様。メット、ロープ、アイスピッケル等冬の岩登りスタイル。山頂軟雪のため断念し下山とのこと。先行が下りてくる雪の迂回のルートを避け、尾根筋を雪のないヤブを選んで進む。頂上直下は、ストックをデポし、ピッケルを持ちヤブの木につかまりトラバース。軟雪を先行者が進んだ跡まで進み、雪解け尾根を少し進むと念願の足拍子岳山頂。自分の技量では難しいと思われた山に登れ大感動。青空の風のない天候で360度の展望。谷川岳も目の前。奥の尾根筋は岩岩の急斜面の痩せ尾根で奥からのアプローチは困難で時折雪崩が発生。下りは、来たルートを着実に戻る。手前のピークで訓練の2人に会い、途中先行の4人パーティーが急な岩場で大停滞。やむなく先行のリーダーがロープを持ち、下りるのを待って先に進ませてもらう。雪の踏み抜き等あったがタンタンと雪滑り、雪解け灌木歩きを楽しみつつ、軟雪につぼ足で潜りながら無事戻る。

前回の難山踏破で気が緩んだのか、3/31にインフルエンザA型を発症。4/1,2会社休み。4/5,6の例会参加は何とかと云う状況下、雪道で中止。体力的には助かる、冬型で行く山は近づくなくなり行きそびれた山へ(栃木県の最後の1山)。

・栃木北1山「日留賀岳」4/6(日)曇り9:20～16:40(7:20)塩原の民家の好意の駐車場に車を置き、遅いスタート。案内表示に沿って進むが、途中道を間違い下方の林道に出て、本来の林道、鉄塔下へ戻り、シラン沢林道終点へ。トラバース気味に進み、ゆるやかに上り尾根に取り付く。急坂を進み、途中より残雪が現れ、山容もわかるようになるが、はるか先のように、雪も少し潜る。午後になり曇りの天候が急変し冬型の天気。残雪多く締まった雪に助けられ、急坂を喘ぎつつも、何とか2P過ぎあとは少し長いしっかりした雪道。淡々と進み、ピーク近くへ。アップダウンを繰り返し、日留賀岳山頂。雪は溶けて少なく、二等三角点、祠のある

平らな山頂。来たルートを着実に戻り、最後はトラバースした(比津羅山)を経てショートコースを進んだつもりがかなり下方の林道に出て戻り返し、鉄塔下より下山。久しぶりに道のある長い距離の山で、歩き甲斐あるも、雪と天候とコース取りはままたらず。

青森北1山 4/12(土)晴れ「朝比奈岳」10:55～19:05(8:10)大遠征して数年前のリベンジ。ルート不明なヤブ山のため、縦走コースの下山口奥葉研より湯ノ股川沿いの林道の軟雪をつぼ足で潜りながら進み、枝林道分岐過ぎ二股の沢の合流地点よりさらに進み、浅瀬を見つけて渡渉(12:25)、雪を拾い尾根筋に出て、ヒバの幼木を掻き分け、軟雪にかなり潜りながら進む。そま道らしき残雪を拾いながら 1P(13:20)。目指す山が見えるも、はるか先で山が入り組んでいる。アップダウン繰り返し、軟雪に遂にワカンを着けるが後ろ過ぎて歩にくい。雪の解けた土面をそのまま下っていたら、片方のワカンが悲鳴上げ支えが壊れ使用不能。やむなく片方のみで、ずぶずぶ潜りながら、アップダウン繰り返し、何とか山の裾野へ。急斜面を慎重に登ると一面のブナ林。もうすぐと思うが、逃げ水のように坂を越えるたびにまだ先に峰が続く。それでも不思議に休みもとらず、黙々と雪面を選びながら進む。何とか朝比奈岳山頂へ(15:35)。釜臥、大尽等の雪山、湖、海、360度の青空の展望に大満足。ゆっくりもできず、すぐ来たルートを着実に戻る。途中鞍部よりそま道へ。小回り効かず、ワカンを外して何とか林道に出る(17:35)。ここから来た道へ合流すると思いきや違うようす。ただ、朝比奈岳が遠望でき、この道がベストと思われるが・・・、林道の軟雪もぐり歩きは根気がいる。雪の解けた土面が時折あり、歩くのが雲泥の差と感じる。沢は下っているので何とかなるだろうと黙々と歩く。枝林道、橋をいくつか過ぎ、採石場の土場に出て雪のない林道となり一安心(18:30)。でも薄暗くなりつつあり、黙々と沢沿いの林道を歩き車で通った記憶のある採石場分岐の本道に出る(木淵沢林道・～石材採石場)。後は、満月近くの月明かりに助けられ、舗道を 2K歩き無事周回して戻る。かなり疲れたが、これで青森県の山は終了。

翌日4/13(日)は疲労等で休息とし次のヤブ山の偵察移動していたら、ヒョンなことから宮古の重茂半島の月山へ。白浜口より遊歩道歩きし階段、林道を経て(月山)山頂近くで17名の「ワシズの会」と合流。山頂から青空・宮古湾、太平洋、雪を被る五葉山系等360度の大展望を楽しむ。久しぶりにゆっくり昼食後一緒に下山(10:35～14:30 3:55)。

4/19(土)岩手花巻西1山「駒頭山」9:40～17:10(7:30)鉛スキー場より往復。スキー場を西より迂回し、第3リフト終点より山入り。笹があるが、しっかりした道を進む。途中より倒木等あるも気にならず、残雪の坂を上ると尾根に出る。軟雪に苦戦しながら、測候所跡で見事なブナ林に感動しながら徐々に高度を上げ、開けた雪原を進むと駒頭山頂(12:20)。残雪の下の方に山表示あり。岩手山・早池峰等山々の眺め良い。さらに奥の松倉山へ尾根伝いに、熊の音を感じながら、小藪・残雪・夏道を利用して小高い丘の(松倉山)山頂(13:35)。三等三角点、晴れて展望もよい。来たルートを靴跡を参考に下る。第3リフト向いのヤブ山(高倉山)へ寄ってからスキー場を下って戻る。以外に長丁場の歩きでした。

・4/20(日)晴れ、岩手北上西2山「黒森」5:35～11:20(5:45)はるかなヤブ山。国道より林道に入りすぐの橋で残雪のため車入れず駐車し出発。残雪に下りの2人の足跡あり、それを目安に少し固雪の林道歩き。木材の積上場を幾つか経て沢伝いに延々と続く林道を進むが、時折、雪崩跡、雪面の急斜面をトラバース等慎重に進む。冷え込みで雪が締り少し助かる。当楽橋を過ぎて右岸に渡りしばらく進み、ヘアピンカーブの奥の急な傾斜雪面を超え、沢の上の雪渓を超え、林道奥の二股の真ん中の尾根に取りつく。オスのキジが盛んに騒ぎ立て道案内？。残雪を拾い尾根筋(雪解けた尾根は灌木・笹が密で残雪期以外登れるルートではない)を黙々と上る。急斜面は慎重に進み、固雪に助けられ、晴天で尾根、山容も見て取れ軽快

に上り平坦な黒森山頂(8:40)。ちょうど雪が解けた笹藪の中に一等三角点を確認。念願の山頂到達で、岩手山等展望もよく、この上ない至上のひと時。来たルートを着実に戻る。好天で雪が軟く、少し潜ったが、早々に戻れた。「仙人山」11:55~15:55(4:00)近くの山で雪のため工場奥の駐車場手前に駐車し、登山口を経て進むが線路を渡り、残雪のため、道迷い。線路沿いから登山道に合流。残雪で先が不明で、先人の足跡進むが途切れ不明に。やむなく取りついた尾根を直登。軟雪に苦戦しつつ尾根平坦部。急な尾根を軟雪に潜り、獣道らしき尾根を上へ。途中より急になり木の枝に捕まりつつ、上へ上へと突き進む。後ろを振り返る余裕もない。何とかなだらかな坂になり安心するが、超軟雪で一步一步進むのに苦労。それでも主稜線の尾根に出て、少し固めの雪となり、歩きやすくなる。立派なブナ林を見る余裕も出て尾根伝いに淡々と進みなだらかな丘の仙人山山頂(14:15)。錦秋湖・山々の眺め良い。主稜線をルートを確認しながら下り、夏道より神社まで一気に下る。大きな姥杉を経て、道は残雪に埋もれ慎重にトラバースしてルートを確認しつつ下る。誰もこの時期夏に登れる山に危険を冒して登らないことを実感しつつ、無事戻れ安堵。

GW前半 その1 4/27(土)晴れ長野北1山「笠法師山」ヤブ山 11:10~16:00(4:50)切明温泉揚水発電所より往復。送水管に沿って急斜面を残雪・階段を利用し上部の貯水槽へ。整備された登山道・残雪を利用して尾根伝いに高度を上げ、途中苗場、鳥甲等の眺めとブナ林を楽しむ。丘のピークより、奥に巨大な佐武流山に圧倒される形で前に笠法師の山容を確認。頂上直下の急斜面に取り付く。雪解けて所どころ笹の猛烈なヤブの片鱗が窺える。軟雪と密な樹林に苦労しながら、笠法師山頂。三角点ある樹林の山頂。戻りに(マムシ沢の頭)で山々の展望を楽しみ、雪滑りしつつ戻る。

・4/28(日)「伝説のハイカー第何弾」晴れ岐阜北、石徹白より大周回。「薙刀山」山頂 9:00「願教寺山」同 11:40 5:45~14:50(9:05)ヤブ山2山 前回より1月が過ぎ、雪解けが進み、和田山への残雪ルートはほぼ消滅。小ヤブの始まり。1Pで既に雪なく、低草地帯。野伏の前をトラバース気味に残雪を拾い、沢を2度渡渉し、小ヤブを越え、残雪の急斜面をゆっくり高度を上げる。灌木が邪魔する尾根筋を経て、広いブナの雪面と薙刀の山容が現れ、安堵。淡々と急斜面を辿り、平坦な薙刀山山頂。野伏、小白の連なり、白山連峰の展望は抜群。尾根伝いに次へ進む。一旦下り上り返すと雪が解けた笹原の(日岸山 9:55)山頂。ここから雪解けた笹藪を掻き分け下り、上り返すも雪解けで笹の海。残雪を広い、笹の薄いところを選び、再び残雪に出て、平らな雪面の(よも太郎山 10:40)山頂。展望良いが眼前に雪の解けた巨大な崖の斜面の願教寺が立ちはだかる。残雪も繋がっておらず、ヤブこぎも必要。残雪を拾い、急斜面を慎重に足元を確認しつつ進む。ヤブを掻き分け程なく雪面現れ一安心。急斜面をゆっくり雪面を滑らないように登る。残雪の急斜面はトラバースを避け、雪解けのガレ場を崩さないように慎重に登り、頂上近くの斜面を慎重にトラバースして平らな願教寺山山頂。辿って来たルートの中、白山連峰の眺めに大満足。2人のアイゼンの靴跡あり、来たルートにはない跡で沢筋を上ってきている様子。来たルートを辿るのは体力・時間的に厳しいため、沢筋から白山への禅定道ルートへ出ることを選択。一気に残雪の沢筋を下り、後は、沢沿いに残雪・尾根と靴跡を探して淡々と下る。渡渉の間違え、残雪の踏み抜き、急斜面トラバース等あったが、二股の合流する笠羽橋に出て安堵。ただ、ここから下るも小ヤブ道。砂防ダムに出て林道現われ、帰れると確信。林道歩きが続き、表示もなく今どこを歩いているか不安になるが、上る車に出会い、トイレ、駐車場が現れ孤独な歩きも終わる。白山道入り口(13:20)で釣り人等の車を横目に長い舗道歩きの始まり。ピンつきの長靴のピンの磨耗を避けるため、地道に土面を選び歩く。途中3月に歩いた初河・丸山の尾根取り付きの登山口を確認。あの時は道も軟雪、残雪の急斜面歩きで苦労したが、今回は雲泥の差。晴天下の川を眺めながら軽快な歩き。無事登山口に戻り、林道を下山してきた地元の夫婦に挨拶。今日は小白山を歩いてきたとのことで3月の雪庇の大変さを尋ねたら、雪庇はなく、ヤブに苦労したとのこと。私が歩いたルートを説明

したら呆れられた。今年は雪が少ない様子。天候・残雪にも恵まれ、記念の大周回ができ、大満足。

GW前半 その2 4/28(月)休み 晴れ「伝説のハイカー第何弾」新潟西 暗闇山塊「烏帽子岳」1山  
6:25~15:50(9:25)地元の犬の散歩の人に山と入山道を教えてもらい、散策の案内表示近くに駐車し歩き始める。道は残雪により途中通行止め。地図にある2本の沢を過ぎて尾根に取り付き、ブナ林・桜・植林地を経て残雪の斜面へ。急斜面のため、雪の解けた灌木に掴まり上へ。残雪歩きが一転やせ尾根のヤブ歩きへ。残雪を拾いつつも、尾根のヤブ歩きが続き、1Pを経てさらにツインのヤブ峰。蔓・小藪に苦戦しつつも、獣道らしきを藪を掻き分け進む。ツインの(前烏帽子山)は、岩が脆い、ヤセ尾根で息を潜ませ進む。3Pは、平坦で残雪のあり、一息。さてここから先、絶壁の岩峰の斜面を登るルートがあるか不明。兎に角近くまで行き中止も含め考えよう。残雪の尾根をゆっくり進むも、斜度が次第にキツクなる。急斜面で戻ろうという心の声と押し問答。急斜面を何とか越え、後は、限りない絶壁に一筋の道らしきに見えるが、崩れた後のようでもあり、絶壁の直登は断念。次に、絶壁下の残雪の急斜面を大トラバースして奥に入り、上へのルートを探せるかが問題。装備不十分(結論としてピッケル・アイゼン(10本以上)あれば、びびることも少ないが、前烏帽子の藪続き、機動性を考えたら、軽アイゼンでも止む無しか?)ながら、軽アイゼン、下の雨具をつけ幾度か戻りかけたが、とりあえず前へ進む。残雪のこの時期の斜面は波を打っており、ストックと足場の3点を確保しながら、進む。このまま、一気に下れそうな斜面であるが、ずっと谷底まで数百m続くと滑落はできない。黙々と進み、目指す取りつきに何とか辿り着く。残雪から土・岩・灌木の斜面に慎重に移り、灌木が入り組む急斜面を足場を確保しつつ、リュック・ストックが灌木に邪魔されながらも上を目指す。急斜面を灌木に掴まりながら上の残雪に出て尾根筋が見えた。続く急斜面の雪面を慎重に登り、尾根下へ。雪の壁の上り口を探し尾根に出て人心地。軽く食事して休息し、さらに続く残雪の急斜面を雪を拾い、烏帽子岳山頂。二等三角点。焼山、火打、妙高、眼前の阿弥陀等に加え海も眺められる絶景を堪能。戻れるかの不安あり、すぐ下る。頂上への避けた急斜面ルートを下り、バランスを崩し、木に掴まれて事なきで済んだが・・・慎重に灌木、残雪を頼りに尾根鞍部に戻り、雪壁・急斜面を足場を確認して一步一步足場を確認し、3点確保で90度に近い斜面を灌木に掴まりながらゆっくり下る。何とか大雪溪の雪面に辿り着き人心地。大トラバースは、再び軽アイゼンを着け、一步一步足場固めをして慎重に進む。トラバース、急斜面を越えて一安心し、後は来たルートを雪滑りを楽しみ、小藪歩きに苦労しながら、無事戻る。天候には大変恵まれた。時期にも恵まれたのだろうか。不思議な感覚を抱きながらも戸惑う自分がいる。下りに時折足跡を見かけたカモシカに会えた。山の主のような気がする。

・4/29(火)晴れ新潟中部2山「八石山」6:15~9:55(3:40)飛岡コースより周回。急斜面を登り、稜線尾根に合流し少し登ると城跡、さらに三角点を経て進むとブナの良い林を経て主稜線へ。少し進むと(上八石山)。さらに下って上し返すと八石山山頂。山々の展望良い。さらに奥の桜道を下り上り返すと(下八石山)山頂。三角点と、山桜、新緑等山の春を満喫し、来たルートに戻る。駐車場は滝見・山菜取りで車多し。「刈羽黒姫山」11:00~12:50(1:50)磯野辺コースを往復。残雪を拾い、時折登山道を見かけて、先人の足跡を辿り、新緑のブナ林をゆっくりと進む。頂上付近のブナはまだ芽が出ず、冬模様。山頂は平坦で長く、奥に山頂標識と小屋あり。山々の眺め良い。ブナの森と残雪滑りを楽しみ、快速で下る。今日の2山と以前登り今日も、八石からの眺めが良かった米山合わせた刈羽三山を制覇。天候に恵まれ充実した今年のGW前半の残雪歩きでした。

GW後半 その1 岐阜飛騨8山 4/3(土)晴れ「輝山」8:40~12:25(3:45)ヤブ山 平湯トンネル口より乗鞍への道を進み、平湯峠より尾根沿いに残雪拾いで山入り。すぐ笹の藪で少し行くと立派な鉄塔保守道あ

り、鉄塔まで進み、後は残雪あり、沢沿いの斜面を進むとテープと足跡あり。一安心しそのテープ等を目印に残雪を拾い高度を稼ぐ。1Pで焼岳等の展望楽しみ、幾峰か越え、輝山(てらしやま)山頂(10:40)。シラビソに表示あり。薄曇りながら展望あり。雪滑り楽しみ、一峰間違えるも目印の鉄塔に出て下山。「十二ガ岳」13:30~15:00(1:30)瓜田口より林道で夫婦連れに会い、登山口よりすぐ鳥居に出て階段を迂回し山頂。三角点あり、北ア12山が見える所。一部の展望楽しみ戻る。「国見山」16:00~16:45(0:45)ヤブ山 駒鼻峠に案内表示あり、笹を掻き分け進み、斜面を登りなだらかになると笹の小ヤブを経て国見山山頂。三角点と表示あり。日差しが心地よい。「大雨見山」17:40~19:05(1:25)登山口不明で、已む無く飛騨天文台への林道をゲートまで上がり、林道歩き。大きな天文台に感心しつつ通り抜け、奥の山を目指す。道らしきはあるが、ヤブ化しており、ルートを確認しつつ、夕闇前にと急ぎ。大雨見山山頂。夕日に滑り込みで間に合う。一等三角点、樹林の中で夕日良い。道を外さないよう慎重にかつ急ぎで天文台へ戻り林道を下り、薄暮に戻る。

・5/4(日)晴れ「天蓋山」5:20~8:00(2:40)天の夕顔道の駅より往復。気温は氷点下で、残雪はカチカチ。キャンプ場を経てゆるやかに山道を登り、残雪現れると先行の団体现れる。団体は、動きが鈍く、遠めに見て、締まった残雪を軽快に上り降りして天蓋山山頂。北ア、乗鞍、御岳、白山連峰の雪山の晴天下のパレードに大満足。下りに団体に会うもアイゼンなく、リーダーが一人ピッケルを振るう都会の団体(?)。雪滑りを楽しみ軽快に戻る。「桑崎山」8:25~11:50(3:25)ヤブ山 山吹峠より往復。近くの山だが雪なく、始めからヤブ漕ぎ。地元の4名の先行者あり少し話しをしながらすぐ追い抜き防火帯沿いに進み、背丈以上の笹ヤブ突入。薄いところを探し迂回しながら少し進むと、ヤブ薄く何とか歩ける。急斜面の下で境界道に会い、その刈払い道で高度を稼ぐ。だが上部に行くと笹の密林地帯となり、低くして道らしきを笹を書き分け進むが道も不明となる。薄いところや脇の残雪等利用し体力勝負を避け進むと広い残雪地帯に出て後は、楽しむように進み平坦な桑崎山山頂(10:25)。晴天・ひのき群、北アの眺めを楽しむ。割れた表示あり。下りも滑りを楽しみ、笹藪突入すると先行の4人に会う。1人が残雪の沢山あったGW、一人は7月の猛烈ヤブ漕ぎで登っているが、今回は残雪少なく苦労。ルートを確認しつつ、慎重に峠に戻る。「流葉山」13:15~16:15(3:00)スキー場第7駐車場より、オートキャンプ場、急坂のスキー上の迂回コースを晴天の中、進むと暑さで体力消耗。刈られたカヤで滑りつつも、リフト終点より整備された道を進むと流葉山山頂(14:50)。二等三角点。御岳等展望良く食事後ショートコースで下山。「安峰山」17:10 山頂まで車で行き街並み等の展望楽しむ。

GW後半 その2 石川金沢8山「卯辰山」5:20~6:30(1:10)金沢一望の卯辰山丘陵を散策。小ヤブを掻き分け卯辰山山頂。三角点あり、樹林の中の静かな山頂。「国見山」8:55~9:20(0:25)小雨、散策路を一気に登り、展望地を経て、三角点のある山頂。樹林の中のそば降る小雨の山頂で、すぐ戻る。「兜山」9:55~11:55(2:00)内川ダムを渡り、登れるか不安な急斜面に取り付く。雑草の小ヤブの急斜面を経て尾根に出る。後も道らしきと獣道。テープもあり。急斜面をヤブの薄いところを掻き分け道らしきを進む。少し疲労を覚えた頃、こじんまりした兜山山頂。テープに表示あり。樹林の中で視界今一つ。雨降りが続き、軽装備のリュックも濡れる。下りは、2度ルートを間違えトラバースし2度目のトラバースで見覚えのある植林地。その急斜面をゆっくり足元確認して下り無事ダム口に戻る。雨降りは続き、車に戻り着替えると本降り、今日はここまでとしあとはルート探索。

5/6(火)晴れ「順尾山」山頂 5:55「大倉山」同 6:50「赤堂山」同 8:00 5:10~11:40(6:30)順尾山林道終点より往復。林道が整備され、残雪等も利用してすぐ順尾山山頂。表示のある、樹林の中の山頂。ブナ林

良い。続く整備された道・残雪の尾根を進み、程なく平坦な大倉山山頂。大門等雪山の眺め良い。展望地を経て先はヤブで行けるところまでとヤブを掻き分け進むと道らしきあり。途中道を失い、再びヤブ漕ぎ、残雪拾い。それでも尾根筋に出ると道あり、残雪等利用し進むと赤堂への谷からの尾根の分岐合流点に会う。赤堂まで道らしきをアップダウンし進むと平坦な赤堂山山頂。表示あり。陽光・春風・新緑のブナ林を満喫。さらに進めるか偵察。テープあり、先に進むと道らしきあるも急降下し登り返すルートで残雪は斜めに急斜面のみで降りても、登りのヤブ漕ぎ必至で、今回はここで引き返す。尾根伝いにあとヤブ山2山進みたかったが・・・。来たルートを慎重に間違えないように戻ると幾組みかの登山者に会う。また行きに通ら過ぎた(上順尾山:三角点あり)を確認し、心地よい春山を堪能し戻る。「キゴ山」山頂 12:55「戸室山」堂 13:25 12:40～13:50(1:10)金沢郊外の医王山系を散策。ビジターセンター駐車場より、スキー場の斜面を登り、キゴ山山頂。山々の眺めを楽しみ、すぐ戻り、そのまま、医王山寺の階段を経て登山道に出て少し登ると平坦な戸室山山頂。三角点あり、新緑・春風楽しむ。樹林の中の静かな山頂。今回はここまで。残雪・新緑・温泉を楽しむ山歩き。

前回のリベンジ 石川金沢5山 5/10(土)曇りのち晴れ「月ヶ原山」山頂 11:25「多子津山」同 13:00 6:40～18:45(12:05)順尾山登山口より長ロングコース 5/6 より遅いスタート。かなり残雪が解け、道はわかり易く、淡々と赤堂山まで進み、テープ・道らしきを辿り、急降下。鞍部は藪っぽく苦戦。それでも、道らしきを進み、残雪を拾い1P。次は尾根のヤブを進み難儀。熊に遭遇。先方が逃げてくれたが、笛を鳴らしつつ進む。残雪・尾根を辿り、月ヶ原山山頂。テープと残雪あり、樹間越しに次の山を望む。尾根のヤブに苦戦しながらも、少しずつ進み、残雪地帯に出て安堵。頂上直下は急斜面だが、残雪を直登して多子津山山頂。ヤブの山頂で大門山等周りの雪山の眺めが晴天もありこの上ない。時間的に戻りも厳しいのですぐ下山。残雪拾いを優先しヤブを避け、月ヶ原までは快調に進む。その先の尾根と赤堂への鞍部と登りのヤブに体力使い、赤堂山で一息。後は、道があり淡々と下り、夕焼けに迎えられ登山口に戻る(幻の「伝説のハーカー編」か・・・)。

5/11(日)晴れ「奥高尾山」山頂 7:25「吉次山」同 8:20 5:50～10:45(4:55)湯涌温泉口より往復。鉄塔下より整備された登山道を進み、(前高尾山:三角点あり、金沢市街、海、医王山の眺め良い)を経て新緑を楽しみながら進み、奥高尾山山頂。ブナ等樹林の中の山頂で順尾山分岐。下り登りを繰り返して池を過ぎ、上り返すと吉次山山頂。二等三角点あり。木漏れ日の中、幹曲がりのぶなに腰掛けゆったりとシャケのおにぎりに緑茶を楽しむ贅沢なひと時。来たルートを戻る。途中変な獣の鳴き声の正体がサルであることを知る。「三国山」12:20 キャンプ場より山頂近くまで車で行き、すぐ山頂。山頂は整備され、三角点・社あり、日本海・山々の展望抜群。

5/17,18・寒気が入り天候不順に悩まされた山歩き。秋田南3山

・5/17(土)「烏帽子山」12:50～16:00(3:10)ヤブ山 曇り 入口の林道が分からず何度も国道を行き来し上院内林道を見つけ、峠まで車で入り、登山口の標識を確認。天気予報が午後回復予定で遅い出発のため、偵察を覚悟で山入り。急坂登ると(ニセ烏帽子)。尾根伝いに高度を稼ぎ次のブナ林の 2Pに残雪あり。途中も刈り払いしてあり、ヤブと思いきその先の尾根もすべて刈り払いしてあり、悠々と烏帽子山山頂。一等三角点、奥の刈り払いされたところがピークで先はヤブ。神室山系の末端にあり、やせ尾根が一部その片鱗を見せる山。曇りで視界なく残念。来たルートを着実に戻る。刈払に大感謝し秘湯の「湯の沢温泉」に翌日の好天を期待して浸る。

・5/18(日)曇り時々雨「丁(きのと)岳」7:30～10:25(2:55)登山口の林道間違え 1Hロス。水無林道口より往



復。木橋を渡り、やせ尾根をブナ林を楽しみながら登る。途中より雨が強くなり、上だけ雨具付け進む。急坂となり、残雪が出てきて・雪解け沢水の音を辿り、進むとかなりの残雪。夏道を探しつつ進む。一面残雪の急斜面をゆっくり慎重に登り、広い残雪の丘となったため、目印をつけ、先へ進むと平坦な雪解けした丁岳山頂。一等三角点、小雨で視界なし。周回の道を確認したが、行く気は起きず、来たルートに雪の足跡を辿る。視界ない雪原で道迷いしないように付けた目印を確認し、急斜面を滑り落ちないように、一步、一步着実に下る。標高 800m位からかなりの残雪あり、雪国の遅い春を実感。

「月山」14:05~16:00(1:55)付近の目指す山が厚い雲に隠れ同様の天候のため、道の駒鳥海郷より見える山を目指すが、時間に余裕ありすぎて、違う方角ばかり車で進み、時間ロスしても、登山口分からず、やむなく隣の姥井戸山遊歩道(荒れた旧道)を進み、小ヤブの獣道の急坂辿り、標高が同じ位の 1Pまで登り、月山の位置を確認。この 1P(664.9m峰)には 4 等三角点あり、樹幹より月山の眺め等よい。林道に戻り、急斜面の尾根に取り付き獣道を進む。尾根を確認し、目印をつけて、一気に進むと向かいの山より遠めに見えた、伐採道に出て急坂・小ヤブを経て月山山頂。三角点・山標示・社・立派な登山道あり、先程歩いた山等も見えるが、当初目指そうとした山は厚い雲の中。慎重に来たルートを辿り、戻る。北国で寒気が入ると山の天気は良くないこと実感。

新潟東部 2 山 5/23(土)晴れ「蒜場山」9:45~15:05(5:20)加治川ダム口より米平新道を往復。急坂を進み、尾根に出て独標を経て(岩岳)。日差し強い。ブナ林・烏帽子岩を経て(山伏峰)途中残雪あり、サルの糞、虫も多い。シラネアオイ、シヤクナゲが見頃。下りの幾パーティーに会い人気の山。尾根を進むと間もなく蒜場山山頂。三角点あり、飯豊連峰の眺め良い。ここから飯豊へのルートは夏は無理か。残雪歩きを楽しみ軽快にダム口に戻る。

「伝説のハイカー編」次のヤブ山「赤津山」へ赤谷林道の下見で林道をドンドン進むも、ルートらしきなく、リミットと考えた 2 時間でやっと目印のテープ、ペンキ等確認。時刻遅く、とりあえず行ける所まで進む。雨量測候所用にブナ林にペンキで方向が示され、道もある。急坂進み、ヤセ尾根を進み、ブナ林の残雪の急坂。ゆっくり滑らないよう進む。道を確認しながら残雪も利用し、急坂を一気に進む。もう戻ることは考えず、測候所まで道がついているらしいので突き進む。ヤブらしきは、道の灌木程度で頂上への稜線の尾根に 19 時着。夕闇に新発田市の街明かりが見える。薄暗い中、地図と薄く見える山並みで赤津山と辿るルートを確認。残雪を進み(西ノ峰)。道と残雪を交互に確認しながら、淡々と進む。幾つかの峰を越え、ツエルト泊できる場所を探しながら夜行ハイク。道は測候所まで続いており、無事測候所着。(ダム 15:05~林道の山入り目印 17:05~測候所 20:35(5:30)。測候所は当然の如く鍵がかかっており、詩碑のところで泊り。天候悪化か、一晩中強風続く幸い雨はなし。

・5/25(日)小鳥の声で起床。3:45~8:25(4:40)薄暗い中、残雪を進み、向かいの赤津山はすぐ。小ヤブを経て「赤津山」山頂(3:50)。三角点あり、小鳥のさえずり、風あり、霞んでいるが、飯豊連峰も見え満足。後は来たルートを確認しつつ、残雪歩きを楽しみ、ヤセ尾根、急斜面は慎重に下り、林道に出る(6:30)。天候は今にも雨が降りそうな雲行き。少し歩くと、ダムの通行止めより、バギー・バイク・自転車等の一団に会う。挨拶したが、格好から釣・山作業・山菜取り等のバラバラの面々の様子。淡々と林道歩きし無事ダム口に戻る。

・一息入れて、ダム口に登山口標示のある焼峰へ。8:40~12:45(4:05)気温が高い。急坂の階段を進み、電波塔のある袖の峰。一旦下りヤセ尾根を登り返すとワシヤクラ峰、三ノ峰を経て(師走峰)。さらに急坂辿り、焼峰の頭(最高地点)。ガレバ下り尾根を進むと(焼峰)

山頂。二等三角点、山々・街の展望良い。大勢の登山客で、山頂は大賑わい。

## 山形・秋田県境 6 山

・5/31(土)晴れ「伝説のハイカー編」「男加無山」山頂 12:30「女加無山」同 13:45 9:30~16:20(6:50)加無林道登山口より往復。材木運搬の方に道を教えてもらい登山口。山菜取りの車1台のみ。道は沢まで下り、川を2度渡渉(靴を脱ぐ本格的な渡渉)川の上流に向かい川沿いに登山道を進む。途中残雪現れ、川沿いの斜面の残雪・ガレバを慎重にトラバース。川を蔽う巨大な残雪より3度目の渡渉。さらに沢沿いに道を慎重に歩く。次の渡渉後尾根へ登り出す。目前に岩峰の山が見え、残雪も現れる。雪解けガレバと残雪の急斜面は、やや危険なため、慎重に足場を確認し進む。洞穴・祠を経て急斜面の岩場を登ると挽割の尾根分岐。さらに尾根の急斜面を木・竹等に掴まり、露岩に出て、急降下し笹をかき分け登り返すと男加無山山頂。三角点あり、ブナ林、笹の山頂で視界今一つ。虫多くすぐ下山。来たルートを慎重に戻り、挽割。対面の尾根へ。獣道らしきところを進むが急斜面で道不明。尾根伝いに登り、小藪を掻き分け、急斜面に出る。ルートは2つ。尾根の急斜面を進むか、回り込み、急斜面を直登。後者を進み、木・枝にしがみつき、腕力で突破し尾根藪へ。下りは無理か？尾根の獣道らしきを進み、なだらかな藪の続く女加無山山頂。男加無山が見える。藪歩きで少々疲れが、下れるか心配ですぐ下山。尾根伝いに進むと下れそうなところを過ぎ絶壁に出て、引き返す。下れそうなところを木に掴まりながら急斜面の岩場を慎重に下り、来たルートを探す。向かいの来た尾根に戻り、急斜面をゆっくり下り、無事挽割に戻り安堵。ルート探しがポイントのリスクな山。下り始めのトラロープに惑わされ道探しをしたが無事元のルートに戻り、足場を確認し、ゆっくり下り、渡渉して戻る。

・6/1(日)晴れ「男甕」山頂 5:45「女甕」6:35 4:35~7:40(3:05)秋田側登山口より、林道から沢筋を慎重に横切り、尾根へ。さらに分岐より横に進み、県境尾根へ出て、ブナの急斜面を辿ると山頂尾根。下り登り返すと男甕山頂。鳥海、神室山系等展望よし。二等三角点、虫多くすぐ次へ。尾根を進み、急降下し分岐に出てブナ林を楽しみながら歩く。急斜面をゆっくり進み、崩壊始めの尾根の先の女甕山頂。青空・太陽・鳥海・涼風が心地よい。虫おり、すぐ下山。急斜面を慎重に下り、分岐へ。淡々と下るも大きな雪渓に惑わされ、道不明に。やむなく雪渓を進むと踏み抜きストン。雪渓の下は不気味ですぐ戻る。そのまま雪渓の沢を下ると手がかりの少ない急斜面の岩場。木・枝、高巻き等して何とか平地に。少し進むと名勝沼。本来の登山道を確認して戻る。蜂・毒虻に刺されたか首筋と左腕が腫れる。

「八塩山」9:15~10:50(1:35)鳥居ノ沢口より周回。尾根ルートの急坂をブナ林の緑陰、風を楽しみながら進むと東屋を経て山頂。二等三角点、ブナ林の中で視界いまいち。奥の山荘を見て風ひらコースを下る。途中ブナの樹間より鳥海の眺め良く、沢水楽しみ戻る。山菜取り等登山者数組あり。「日住山」12:25~13:20(0:55)舗道の林道を車で山頂下まで。整備・刈り払いされた階段を上るとすぐ山頂。4等三角点。黒塗りの社あり。ブナ・緑陰・セミの声・涼風を楽しみつつ戻る。

梅雨時のため、天候等を見て山歩き。6/7(土)山形北1山「板敷山」10:45~13:50(3:05)曇り 案内の林道が通行止めのため、反対側の熊谷神社より往復。ゲートを越え林道を進むと鉄塔案内と高圧線が見え目指す方向を確認。分岐の広場よりH鋼の橋を渡り、進むと鉄塔 NO5 の案内。整備された鉄塔巡視路を辿りつつ折れの路を進み尾根へ。後は刈り払いされた路を高度を上げ、ブナ林・笹原を進み、二等三角点の山頂。高圧線下にある。風強く、天候も今一つですぐ下山。ブナ林・展望を楽しみながら来たルートに戻る。これでベースの「新日本山岳誌」に載る山形県の山は、宮城・青森に次いで制覇。秋田南1山「三ツ森山」天候が変わり雨。道探して戸惑い登山口を探し回る。18:25~19:00(0:35)広域林道で山に一番近い登山口より入山。尾根に出るとすぐ分岐。雨に濡れた草木にズボンをびしょ濡れにしてすぐ山頂。一等三角

点。樹林の中で視界今一つ。小雨のため、すぐ来た道に戻る。

6/8(日)秋田南4山曇りのち晴れ「保呂羽山」4:30~5:20(0:50)曇り 広い駐車場より林道を進み、尾根の登山口。急坂を慎重に上り大きな神社。雨露のため、雨具をつけ、やせ尾根を辿り山頂。二等三角点。ブナ・ミズナラ等樹林の中。滑らないよう気をつけ下山。「勝軍山」6:10~7:05(0:55)晴れ 道案内不明で已む無く、鳥居のある林道を進み、倒木で通行できないところより、伐採林道の急坂を上へと林道を突き進む。尾根筋に出て、山と思われる方角に進む。ピンクの境界テープ確認し安堵し進むと平らな勝軍山山頂。二等三角点、街並みの眺め良い。反対側の登山道を確認し、優勝を祈願する勝軍山神社を拝み、軽快に戻る。「東光山」山頂 9:25「笹森山」同 9:55 8:20~13:30(5:10)東光山登山口より往復。山を勘違いしてややリスクなヤブ漕ぎ。整備された案内表示で進み、すぐ5合目毘沙門堂。さらに進み7合目尾根分岐より反対側の小ヤブを上ると(仏洞山)。分岐に戻りブナの尾根を進むと東光山山頂。神社に山頂表示あり。鳥海・由利本荘の街並み・日本海の眺めが好天に映える。さらに奥へと急斜面を一気に下り、上り返すが道不明。已む無くルートを探し小高い尾根に出ると立派な境界道あり。少し進むと笹森山山頂。一等三角点、日差し強いが心地よい。一息入れる。3つに山林境界テープ道あり、尾根伝いに行けると思われた次山を目指す。尾根・テープ等を目安に間違いつつも進み、一旦沢に下り急斜面を登り返す。目印なく、尾根筋らしきを進み、林業ピンクテープと出会い、さらに急斜面の獣道を登る。平坦なブナのヤブを進むと神社のある(黒森山)山頂 11:20。反対側に立派な道を確認。ハエが多のですぐ下山し来たルートを確認しつつ、ヤブ漕ぎしながら笹森に着いて安堵し、ゆっくり戻る。あとで本に載っている山は、笹森山と知り、啞然となる。「伝説の・・・」と云える山歩き

およね会に参加した後山歩き。6/14(土)雨 秋田東2山「大白森」山頂 10:45、「曲崎山」同 13:15 8:50~17:50(9:00)鶴の湯温泉登山口より長距離往復。天候小雨でゆっくり出発。軽のトラックがかなりの数止まっており、こんな雨模様で入山するのか？尾根を進んでいくと大きなリュックを背負った人が下りてくるのに出会う。竹の子取りの人で皆収穫に満足の顔立ち。道沿いに大きな竹藪があり、下る人は全て竹の子取りの人。高度を上げ、木道を進むと平坦な湿地帯の(小白森)。ぱらつく雨。熊除けの音が鳴るブナ林・水芭蕉の湿地帯を経て再び木道を進むと大白森山頂。遂に東北 100 名山踏破し満足。チングルマ等高山植物も咲き始めで楽しむが、小雨のため、すぐ出発。木道を進み、下ると大白森山荘。一休み。手入れされた避難小屋で宿泊可。藪化しつつある道を進み、大沢分岐よりしっかりした道へ。次のピークの(大沢森)を経て時折笹を掻き分け、平坦な湿地帯等を過ぎ、急坂を上り進むと平坦な曲崎山山頂。二等三角点、雨で視界今一つ。すぐ下山。「雨後の竹の子」の言葉を実感。子竹が歩く傍から生えている。大白森山荘(15:15)で一休みし食事。雨が強くなり淡々と戻る。雨でかなり濡れ、鶴の湯の姉妹施設の「駒の湯」で温まる。

6/15(日)曇り後晴れ秋田南6山「黒森山(太平山)」5:20~6:15(0:55)ユメリア登山口より黒森遊歩道を周回。(前黒森山)で街並みの展望他しみ、わらびの里みたいな道を辿り、急坂登ると黒森山山頂。三角点、社あり、東屋からの展望良い。近くの(高寺山山頂 6:45)で古寺散策。「神宮寺岳」7:55~9:15(1:20)伊豆山登山口より往復。登山口ルート探し間違えたため、近くの山の立派な鳥居口より整備された道を進みすぐ(伊豆山山頂:神社あり)目指す山の方角にルート有りそうなので尾根伝いに下り、林道分岐の鞍部より登り返し本道と合流し坂を上ると神宮寺岳山頂(ダケ山)。神社、三角点有り、一部展望有り。来たルートに戻ると伊豆山神社の草刈衆と出会い、お礼を述べて戻る。「太平山」9:40~10:40(1:00)薬師参詣道より往復。鳥居より入り、薬師を拝み、足場に気をつけ急坂、トラバースを経て本道尾根に出てすぐ太平山山頂。雄物川・街並みの展望楽しむ。三角点・社、電波塔林立する賑やかな山頂。下りはゆっくり戻る。ここで仕舞

いとゆっくり外食。天候良く、下見と称してルート探索。「黒森山」山頂 13:00「御嶽山」同 13:35 12:40～14:25(1:45)女神山系の南端で峠手前の林道鳥居口より往復。整備された道を進み、分岐を入るとすぐ黒森山山頂。一等三角点、陽光、微風、夏セミの声が心地よい。分岐まで地元の方と山菜話し先の山容を教えてもらう。分岐より、尾根を進み、少し下り 1P過ぎ先に目印の社見える。しっかりした道を木等に注意しながら淡々と進み、御嶽山山頂兼神社。先に小藪を進むと三角点あり。ブナ林を楽しむ。天候怪しくなりすぐ下山。幸い雨には降られず。「金峰山」15:40～16:10(0:30)ダム上の林道の鳥居口より往復。ブナとユキツバキの群落を楽しみ山頂。社有り、樹間より街並み眺め、そよ風に心を潤し下山。近くの「ゆっふる温泉」で汗を流す。遂に 4000 山のうち何とか 1800 山通過。

岩手・秋田6山 6/21(土)曇り「安比岳」8:35～12:10(3:35)黒谷地登山口より往復。木道を進み、本道(八幡平～茶臼)へ出て、遊歩道の残雪歩き。安比高原分岐に出て、高原方面へ残雪等の道を確認しながら下り、2つ目ピークを進むと三角点のある山頂。山々の眺めよい。戻りに最高地点を求め、残雪利用し藪の最高点を確認。道への戻りに迷ったが残雪辿り道に戻る。下り、緩い登りを進み分岐へ出る。八幡平方面へ進み、(源太森:八幡平・沼等展望楽しむ)へ寄り戻る。途中大勢のハイカーに会う。「高倉山」13:35～14:45(1:10)黒森山林道口より笹を掻き分け山頂。一等三角点、山々の眺めあり。竹の子取りの山だが、虫多くすぐ下山。・次は偵察のつもりが長距離歩行「五の宮岳」山頂 17:50「皮投岳」同 19:10 16:30～21:15(4:45)五の宮3合目鳥居口より往復。下山者を見送り出発。林道を進み、分岐で草藪・崩壊地を進み、途中良い道を確認。日没前にと大汗をかきつつ坂を急ぎ上る。3ピーク目に五の宮山頂着。二等三角点、神社、街並み、皮投等の展望を楽しみすぐ次へ。一気に下り見事なブナ林をアップダウンしながら進み、急坂登ると山頂への尾根筋。霧で濡れた草露にズボンを濡らしながら急ぎ足で進み、皮投岳山頂。ジャスト日没で茜の太陽を眺め、小鳥のさえずり、涼風を楽しむ。三角点あり。ライトを出して急ぎ足で下山。夏至の日の長さに助けられ、坂を一気に下り、薄闇のブナ林から五の宮直下の坂まで一気に進む。急坂を息を切らしながら上り、山頂手前で足元不安でライト点け五の宮山頂。街明かりを楽しむが、急ぎ歩きで疲労の色濃い。あとは、ゆっくりと滑らないよう下り、正規のルートで林道に出て戻る。空は満点の星で、一日の長い山歩きと夜間歩行の疲れを忘れる。

6/22(日)晴れ「院内岳」7:00～10:55(3:55)薬師峠ゲート口より入山。林道を歩き、入り口を見過ごし、林道終点まで行く。先に道なく、植林の刈払いの急坂を辿り尾根筋へ。そま道あり、尾根伝いに進み、小藪の1ピーク。山の表示ないため、先へと下り進むと薬師峠分岐の案内表示。道の間違いと現在地を知り安堵。祠を経て反対側の伐採道へ下り、山頂方向へ終点まで進む。そま道の急坂を一気にのぼり尾根筋へ出て、境界テープ、道を進み山頂近く。藪で山頂不明なため、高いところへと藪漕ぎ。標石に続き何とか木の高いところに山表示見つけ、バンザイ。下ろうとしたら、探していた二等三角点を笹藪に見つけ満足。陽光・ぶな林を楽しみつつ、尾根筋から伐採道、峠へと出て本来の道を下る。新奥の細道自然歩道だが、人は歩いていない様子で、草丈高いものなどで覆われ、林道からの入り口も下って始めてわかった。「高尾山」13:55～14:50(0:55)神社鳥居口より往復。石段等の道を淡々と進み、高尾山神社。すぐ脇が山頂。樹林の中。東屋跡で夏の陽光、山と川の展望を楽しみ。近くの電波等の林立を確認し、苔むした石段をゆっくりと戻る。

梅雨時で天候見ての山歩き。

・6/28(土)秋田南3山晴れ後曇り「三ツ森山」8:45～10:00(1:15)林道登山口より、先行の5人パーティの後を追いつた。草丈が道に出ており、払いつつ進み、先行追い越し、整備された道を進む。急坂を過ぎ踊り場に出ると笹等が道を塞ぐ。払いながら進み、山頂。三角点あり、陽光、セミ・小鳥の声、涼風に夏を感じ

る。山々、街並みの展望よく、ブナ林を楽しみ戻る。「南郷岳」11:05～12:15(1:10)林道探しに手間取り、その林道も削られ、草丈あり、車に我慢してもらい、林道終点近くに駐車。登山口で年配の人に挨拶。整備された道を進み。神社・石段を経て金峯山奥社、さらに奥が山頂。三角点あり、山々・街並みの展望と陽光を楽しみ下山。「東山」13:40～17:10(3:30)車を騙して林道終点の 3 合目登山口。晴れだが、山に雲がかかる。号目表示に助けられ、順調に進むが、7 合目分岐で敢えて直進。縦走路を雪渓ガレバに注意し進む。竹の子取りの開かれた脇道に入り、笹藪越えて 1P。何もない無名の山。慎重に藪を掻き分け縦走路に戻り、引き換えす。途中 7 合目分岐の峰に登れそうなのでトライ。尾根まではすぐ、後は尾根伝いに藪漕ぎし 2P。ここも何もない山。慎重に下り、7 合目分岐に出て、笹を払いつつ下る。登り返し進むと一面の笹の原。背丈以上の笹を払い、道を確認しつつ進む。赤テープ所々あり。霧で濡れた笹を払い、笹ゲートを抜けてガレバ経てやせ尾根の平坦な山頂に立つ。強風・雲で視界今一つ。小雨となりすぐ下山、来たルートの下りは、あつと云う間に分岐。ただ濡れた笹で、シャツはビショ濡れ。少し下ると霧雨もなくなり、軽快に下る(雨具・藪手袋等持たず軽装で歩いたことを反省)。

6/29(日)降水確率高く、早朝・午前中勝負。曇り・雨秋田・岩手 4 山「諏訪山」4:25～6:30(2:05)曇り、鬼頭集落口の林道終点より山入り。草丈の茂る旧林道らしきを草を払いながら進み小川を渡り、尾根に取り付く。道らしきを辿り、急坂を枝を払いながら上へ。道にかかる枝を折りながら進み、林道境界道に出て一安心。神社・祠・大岩を経て、草を払い進むと反射板 2 つある山頂。曇りで視界今一つ。戻りは合流地点より境界道進むが、違う方向に続くため、合流地点に再度戻り、来たルートを確認しながら戻る。「筑紫森」7:30～8:20(0:50)曇り 整備された道を草を払いながら進み。樹林下の広い急坂を経て、さらに岩岩の急坂登ると山頂。祠あり、太平洋系等の眺め良い。慎重に下る。「岩谷山」8:35～9:25(0:50)ユフォーレ口より、号目表示に助けられ、植林地・ナラ林等経て山頂。三角点あり、小雨。先の展望地に下り、山々、街並み、日本海の展望楽しむ。下りは途中から雨が本降りながら樹林の中でさほど塗れずに戻る。「白木峠」12:40～13:50(1:10)湯田越中畑口の林道終点より山入り。帰路、偶然天候曇りのため、寄る。早足で古道、ナラ・ブナ林、林道を経て一気に白木峠山頂。三角点あり、緑一色の山並み、集落の眺め楽しむ。雷がなり始め急ぎ下山。途中より雨本降り。少し先の樹林の中でブナの木より、熊の駆け下りを目撃。大声上げると熊は反対方向へ下る。一瞬の出来事。雨の中、一気に下って戻る。帰路雨が激しく、高速でバケツをひっくり返す以上の土砂降り。山で会えばず濡れ必死。雷雨に注意。

夏休み北海道シリーズ:「伝説のハイカー」2編。

・7/6(土)7(日)晴れ 中日高「コイカクシュサツナイ岳」山頂 9:45「ヤオロマップ岳」同 11:40「1839 峰」同 14:25「1826 峰」同翌日 9:05 5:00～18:05(13:05)翌日 3:40～17:40(14:00)札内ヒュッテゲート通行止めよりトンネルを抜け、コイカク登山口。最初から溪流靴で川を遡行。広い河原で水量少なく、二段堰を高巻きしただけで後は一気に遡り、二股。縦走する尾根は水場なく、沢水 2?補給して、地元のコイカクを日帰りで登る人に会い山情報交換。登山靴には着替え、木に沢靴を吊るし(キツネかじり除け)尾根への取り付け。出だしの笹原で道迷い。先行の地元の人々の音に助けられ、本道を笹等書き分け急坂登り、先行の人に追いつき一緒に登る。途中追い抜き急坂を経て(夏尾根の頭)二股で下山する夫婦に聞いたテントあり。一息入れ尾根を進みすぐ「コイカク岳」山頂。中部日高の山々の眺め楽しみ、色々と教えて頂いた地元の人に挨拶して先へ。這い松を掻き分け進み、(ヤオロの窓ピーク)を経て淡々と尾根を進み、ヤオロマップ岳山頂。三角点あり、山々の展望楽しむが暑さで消耗。荷物をデポし、軽身で水場まで下るが、5 分でコップ 1 杯位の水。上り返しも急坂で苦戦。山頂に戻り、先へ尾根を進む。途中テント泊の方と会い情報交換。道は先人の努力でしっかりわかり助かる。暑さで体力消耗。前山は南が絶壁。鞍部へ下り、急坂をゆっくり上り返し進むと念願の 1839 峰山頂。雲の湧く中、展望を楽しむ。暑さ、疲労等のためゆっくりヤオロ岳に戻り荷物を回

収し、ヤオロの窓下の空き地でツェルト泊。翌日は、雨具の下をつけ出発。這い松等で夏尾根過ぎて次のピークまで這い松ヤブ等で靴の中も濡れる。荷物をデポし軽身で急坂下り、這い松尾根のアップダウン。途中より好天の日差しで体力消耗。尾根の歩き易いところを探し進むが、這い松に苦しむ。特に頂上手前は上り坂続きバテる。何とか 1826 峰山頂。カムエク、昨日からの山々の眺めよい。同じ尾根を引き返すが、日差しの強さで最鞍部より少しづつ休み休み辿る。沢からの涼風に気持ちは癒される。1Pに戻り荷物回収。朝と比べようもない午後の這い松ヤブに苦勞しながら夏尾根より一気に下り、二股で沢靴回収し戻る。この時期ダニの繁殖期で今回も数十匹のダニを払ったが、数箇所刺された。

○7/9(水)「中ノ岳」4:55~16:55(12:00)曇り 7/8(火)晴れの日だが足の打撲でゆっくり道の偵察休養。神威山荘より沢靴のみで往復。笹・草薺の茂る道を進み、河原へ出て最初間違い神威ルートへ進み、気づいて戻り、沢を辿る。陸道も利用し淡々と進む。山崩れで枯れ立ち木の広がる下二股で左へ進み、沢歩きが本格化。慎重に進み、高巻きして中二股。一息入れ、右のノーマルな沢を進む。先人の情報を元に上二股で左の沢を選択したいが急な岩岩のルートでやむなく中尾根に取り付く。急坂の笹薺で沢靴はすべり放題。慎重に灌木を探しながら背丈以上の笹原を上へと進む。小 1 時間奮闘したが、同じ状況のため、左の沢を目指す。沢に辿りついたが、枯れ沢ですぐ尽き、同じ笹ヤブ原。それでも少し進むと開けた笹の背丈の低い草原に出て一息。楽しく進むが次第に笹は深くなる。左手に先人の話に出る急なガレバが出ており、そちらへ方向転換。ガレバを慎重に上り、さらに続く急な坂を木・草に捉まり攀じ登ると尾根筋に出る。方向感覚不明でやむなく高い方へ左尾根の獣道を進む。いくつかのピークを越え最終ピーク(1445m峰)で位置を再確認しルートの間違いに気づき、また尾根入り口に戻り反対の尾根をピークを探しながら獣道を進む。雲の切れ間より、一際高いツインピークの山が見え、確信して、直下の這い松に梃子摺りながらも念願の中ノ岳山頂。看板あり、神威等の山々の眺め楽しみ、食事していざ戻る。忠実に尾根を下り尾根取り付き点より急坂・ガレバを慎重に下り、来たルートの平原に出て右の沢へと笹を掻き分け進む。枯れ沢に入り沢筋を笹等書き分け、ダニを払いつつ下る。途中 10~20m程の滝を 2 度高巻きして上二股、さらに沢歩きを楽しみながら中二股、また高巻きして下り、下二股の枯木立。暑さで火傷に近い状態なり脚絆外して、淡々と、沢を確認しつつ戻る。誰にも会わない日高最奥の山を歩いて大満足。台風の影響でこのシリーズはここで打ち止め。

10月例会下見山行。7/12(土)晴れ 白山山系1山「長倉山」13:50~20:15(6:25)例会登山口の禅定道一里野温泉口と下山口の中宮温泉口を確認。一里野ハライ谷口より整備された登山道を進み、水場、檜巨木を経てしかり場合流点。尾根道を進み。三角点のある長倉山山頂。白山山系の残雪の山々、トンボを楽しむ。さらに奥へ進み、避難小屋を経て(奥長倉山)まで行きタイムアップで戻る。分岐より、直進しブナ林、檜林を散策し、パワースポットの(檜倉)で岩に根を張る檜群を見て、ゴンドラ口へ。道が不明なためスキ一場の背丈位の草薺を滑りながら苦闘し下山。

・7/13(日)曇りのち雨 近くの山3山を登る。「大嵐山」4:50~6:00(1:10)大嵐園地より尾根経て、ブナ林を楽しみすぐ山頂。白山山系の眺め楽しみ戻る。「砂御前山」山頂 7:30「鳴谷山」同 8:50 6:05~10:25(4:20)林道終点より往復。沢筋を進み尾根より岩岩をトラバースし次の尾根に出ると、分岐。杉の巨木(サンカン杉:自然木)を眺めつつ坂を登ると平坦な砂御前山山頂。二等三角点、樹林の中で風強い。分岐に戻り奥へ進むとブナ林で雨降り。一息入れ上の雨具つけ、尾根筋を進むと小高い丘。回り込み、灌木を進むと鳴谷山山頂。三角点あり、杉等灌木の中で白山の上部は雲の中。小雨のため、すぐ下山。途中若い2人連れに会い挨拶。急ぎ足で進み、岩岩のトラバースを慎重に歩き尾根に出ると雨が本降りに。下の雨具

もつけ、一目散に下山。登山口近くで土砂降りとなる。今回はここまで。

7/20,21 例会白山縦走下見山行実行編。白山加賀禅定道 18km、中宮道 20km 標高差 2000m、「伝説のハーカー編」7/20(日)5:15~20:40(15:25)「四塚山」山頂 12:35「大汝峰」同 14:10「剣ヶ峰」15:00 未明より雷雨・大雨。取り合えず明るくなり準備。ハライ谷登山口より小雨の中、山入り。前回歩いたルートを進み、水場・分岐・長倉山を経て避難小屋で食事。天候は回復傾向。日差しも出てきた。刈り払いされた坂道を進み(美女坂頭)。カメラ忘れに気づきメモに頼る。百四丈の滝の展望を楽しむ(昨夜からの大雨で見事な瀑布)。天池を経て四塚山山頂。ハイマツの山頂で展望良い。さらに隣の(七倉山:山頂はハイマツの藪の中、北へ抜け花畑とガレ場と熊の気配。)岩間道へ出て七倉の辻。さらに一山上り大汝峰山頂。避難小屋、神社あり。眺めよい。一旦下り白山山頂へのルートを進み途中よりガレ場、岩岩を慎重に進み剣ヶ峰山頂。向かいの御前峰(白山山頂)の大勢の人に手を振る。慎重に本道に戻り、坂を登ると白山山頂。室堂、山々の眺めよい。すぐ室堂に下り、一休みと食事。連休中日の好天で大勢の登山者。草露で靴の中が洪水となり、乾きかけ。明日の天候は知れないのでエイと前進。中宮道分岐まで登り返し、慎重にガレ場、岩岩の急坂を下る。大きな雪渓に出て間違っって一気に下り、道迷い。剣ヶ峰の裾をまくと思い進むが道らしきなく、地図を見て雪渓の反対側に登山道を発見し安堵。一気に雪渓をトラバース本道に戻る(30M のロス)。平坦な花畑・雪渓を小走りに進むと登りに。これが銃走路かとあといくつもの上り下り。白山フウロ、ハクサンコザクラ、キスゲ等花を楽しみつつも、草露で乾いたズボンに再び濡れ始める。日没までどこまで行けるかと進むが、長い。草地歩きも多く、花を楽しむには良いコース。地獄視で 19:00 夕日キレイ。うぐいす平でウグイスの声を聞き、間名古の頭の裾野をトラバースして進むうち暗くなりライト点灯(19:40)。避難小屋まであと2キロから長い。草露道のアップダウン、刈られた笹に感謝しつつも熊の気配もあり一気に進む。急な下りは、道を踏み外し危うく落ちそうになったが、草等にしがみつき事なきで以後慎重に下りは進む。ライトへの蛾の襲来を跳ね除け何とかゴマ平避難小屋にライト点灯 1Hで到着。先人4名おり、静かに身支度し整理体操で外に出ると満点の星に大満足し就寝。○7/21(月)晴れ 4:10~9:05(4:55)小屋脇の湧き水で喉を潤し三日月の薄明かりの中出発。すぐ明るくなり、5時に日の出を拝む。ブナ林・白山連峰の眺めが抜群で、歩き甲斐のある長丁場。登山者2名と山話。シナノキ平避難小屋で食事。さらに進み、草刈の人(乾氏)に会い北部白山のルートの情報交換。中宮道は、花の8月も良いが、紅葉は白山でもピカイチ。ルートが長く、自然のままの紅葉のバリエーションが楽しめるとのこと。草刈に感謝し10月の例会に期待。後は淡々と登り下りして進み、草藪を過ぎ急なコンクリ階段を2つ下ると中宮道登山口(9:05)。温泉まで行き、夏の日差しの中の4kmの歩きを想定したが、宿の宿泊者予約のマイクロバスが通りかかり、頼み込んで乗せてもらえて大感謝。岩間温泉入り口で下車しハライ谷登山口に戻る。車で中宮温泉へ戻り、お礼に秘湯の温泉につかり、みやげ物店で食事し岐路に着く。天候・人に恵まれた2日間で、地元の方に感謝。

### 秋田中南部3山

・7/26(土)晴れのち曇り「白子森」10:15~16:40(6:25)太平山系 井出舞林道 4.5kで岩盤崩れで通行不可。駐車し落石等ある林道を進む。山が異様な光景。春先の新緑のように木に葉がない。約半分以上の山々の木が悲惨な状況。蛾の異常発生?。林道通行止めで人が入らず、草藪を掻き分け進む。鉾山跡・入り口の標柱あり、草を掻き分けて尾根に取り付く。ブナ林を楽しみながら支尾根分岐で尾根に出て、尾根伝いに進み主尾根分岐、人が入らずヤブ化しつつあり、下道を探りつつ、坂を上る。一度ルートはずしたが無事本道に戻り、ヤブを掻き分け平坦な白子森山頂。二等三角点、標識は蟻の巣状態。曇り、灌木等で視界なし。来たルートを辿り、支尾根分岐より向かいの小熊森目指す。尾根伝いに進むが獣道兼ヤブの状態。ヤブの薄いところを拾い、何とか(小熊森)山頂。山頂もヤブだが、白子森の眺め良い。来たルートをや

つくり戻り、分岐よりブナ林を楽しみながら登山口へ。草藪を掻き分け林道に出て無残な葉のない木々を眺めながら戻る。

・7/27(日)小雨「馬場目岳」5:15~8:15(3:00)天気が予報どおりすぐれず、待機。静岡から来た300名山目指すご婦人連れに勇気もらい太平山登山口でもある旭又登山口発。2つのコンクリ橋渡り、尾根に取り付き、杉林へて、見事なブナ林の坂を雲で白くけぶる中、幻想的な思いで進む。赤倉分岐より尾根伝いにアップダウン繰り返し、草原を経て避難小屋と馬場目岳山頂。三角点あり、雲と強風で視界なく、避難小屋に入る。キレイな避難小屋で訪問ノートを書き、ゆっくり食事。下りは淡々と戻り、分岐より赤倉の手もあったが、天候すぐれず戻る。登山口は、大勢の団体が太平山への登山準備。人気のある山。

・「本宮山」12:25~15:40(3:15)帰路偵察の予定で登山口。若畑集落より刈り払いされた道と表示板を頼りに若畑沼を経て、岩戸沼。西の端、さらに尾根口まで草の刈り払いあり、かなり助けられ感謝。急な尾根に取り付き一気に登り、稜線に出る。不明なところもあるが、尾根を草木を掻き分け急坂に取り付く。慎重に足場を確認しながら、やせ尾根を木・岩等頼り、着実に進み、避雷針のある本宮山本峰。雲が湧くが、山々等の眺め良い。下りを少し進み、東の峰を目指す。刈り払いされた、尾根道を下り、ブナ林を登り返し三角点ある(東峰)。集落の眺め良い。雨が降り始めもつけるがすでにびしょ濡れ。尾根に戻る急坂を滑らないよう下る。ブナ林の急坂でブナの森の吸水力を確認しながら戻る。

東北夏山 8/2(土)秋田中部2山曇り後晴れ「大石岳」7:50~10:55(3:05)地元の人に道を聞き、西ノ又林道終点まで行く。水量のある川を渡渉し草藪を払い退けながらゆっくり進む。途中見事な滝あり。沢沿いの旧林道を進み、登山口。トラバースしながら進み、急坂のブナ林登ると平坦な山頂。曇りの中に太陽現れるが視界今一つ。下りはブナ林等楽しみ、滑らないよう歩く。最後渡渉で片足がずぶ濡れで戻る。草露等で靴もぐしょ濡れ。

「大仏岳」11:50~18:15(6:25)田沢林道が荒れており、土砂で埋まった堰堤脇に駐車し出発。天気良くなり、夏曇りの日差しの中、しばらく林道歩き。ブルが歩いた跡あり、淡々と進み、草藪の登山口。草を払いつつ進み、沢の崩壊地で草藪で方向わからず、草を払い高巻き道を探し進む。沢が崩壊してきており、テープ等目安に何とか尾根を経て距離表示案内に辿り着く。草藪等を掻き分け、テープ等に助けられ中間の尾根に出たが、払った草藪の音・汗等嗅ぎ付けた虻軍団に追われブナ林の急坂を黙々と進み、池塘の平坦地に出てすぐ一等三角点のある大仏岳山頂。山々の眺め良い。虻を少し退治し落ち着く。戻りは見事なブナ林を楽しみつつ尾根分岐まで。向うに山が見え、エイとそのまま踏み出す。尾根伝いに藪漕ぎして刈り払いされた(篠岳)山頂。大仏等の山々と集落の眺め良い。尾根藪を戻り、下りは軽快に林道に出て、駐車場手前で熊に出くわすも、声を上げ、いなくなったことことを確認して戻る。

・8/3(日)晴れ岩手中部1山「高下岳」6:00~10:35(4:35)高畑登山口より往復。ずぶ濡れ登山靴は足の裏の感触不良で已む無くタウンシューズで出発。すぐ靴底がカタカタ鳴り出し剥がれそう。戻らず進む。ブナ林の眺め良いが、靴のことで歩き方から全てそのことで一杯。案の定途中剥がれ、ヤブ用細布で両方も縛り、騙しながら歩く。ブナ灌木・ダケカンバ帯のに急坂登り、頂上への尾根に出て、ハイマツ帯を進むと高下岳山頂。和賀岳の眺めが最高。晴天で、鳥海等山々の眺め良い。尾根分岐より、(南峰)で眺めを楽しみ、夏の日差しの中、靴を心配しつつ、延々と続くブナ林の見事さに圧倒されながら無事戻る。

これで新日本山岳誌に載る秋田県、岩手県の山々を踏破し人心地。

台風等で西鎌・槍中止で新穂高散策後雨の中、近くを歩く。

・8/8(金)岐阜飛騨2山 雨「日影平山」山頂 14:25「丸黒山」同 15:10 13:45~17:55(4:10)乗鞍青年の



家駐車場より往復。雨中サンダルで散策後、登山靴を履きとりあえず日影平山までと出る。林道進み丸黒まで 1/60 刻みの表示あり。遊歩道分岐より御岳見晴台へ寄り戻って反対側の階段を登り進むと日影平山山頂。平坦な三角点のある、樹林帯の中の山頂。一旦下り本道に合流して幾つかの丘を越えて(枯松平山)山頂を経て同避難小屋。一息入れて進むと白山見晴台。整備された急坂を経て尾根を進むとにぎやかな声のある丸黒山山頂。草刈の方々に会いお礼を云う。三角点・祠あり、広場で雲の中の山頂。雨本降りとなり、駆け足で急ぎ白山見晴台まで一気に下る。あとはゆっくり進み、避難小屋で食事・一息入れ淡々と来たルートに戻る。今日は一日雨続き。

・8/9(土)雨 飛騨2山「猪臥山」6:50~7:10(0:20)道探しに迷い時間ロス。舗道の道を山頂直下まで行き、少し登ると猪臥山山頂。三角点あり、周りは雲の幻想の中。風雨あり、山方向表示盤もあり。天気同じですぐ戻る。

「見量山」8:45~9:50(1:05)見量林道を始めから終わりまで車で走るが登山口不明。やむなく唯一進めそうな入山禁止幟の砂利の林道より進む。林道終点まで行くと登山口の木札確認し登り進む。尾根に出ると8/15から11/10まで入山禁止の表示。松多くコケ取り入山禁止の模様。尾根進むと祠のある見量山山頂。雨・樹林の中で視界今ひとつ。すぐ下山。台風接近で天候の回復見込めず、今回の遠征はここまで。

東北エリア踏破。新日本山岳誌に載る東北6県の山々をすべて歩くことができ満足。

・8/16(土)南会津1山「八十里越」12:15~21:00(8:45)入叶津ゲートより雨の中出発国道289号の未開通工事路線を進む。傘差し虻に追い立てられ、大麻平口より入山。昔の街道路で山腹をトラバースするルート。雨の中、ブナ林を楽しみ、幾つもの沢を横切り、湿地に長靴の足を取られ、虻に追い回されながら進む。松ヶ崎の祠を経て進むと、八十里越峠(木ノ根峠)。福島・新潟の県境で昔の石碑あり。その先は草藪を掻き分け、旧林道に出て砕けた標識に惑わされながら進み、天気が回復し日差しも出て、岩盤の上を歩くと小松横手の表示さらに慎重に沢を越えて進んでいくと最高点の鞍掛峠。越後平野が望め、陽光も、祠もありここから戻る。ブナ林を横目に、淡々と進む。沢の横断は注意して歩く。松ヶ崎で薄暗くなり、ライトを付けゆっくり歩き、国道工事道へ出る。ライトを消すと真っ暗で淡々と1H歩き戻る。遂に東北を終えるため、過去の東北の山歩きを回想しつつ歩いていた。天候不順で今回はここまで

8/23(土)新潟中部2山「諏訪峠」9:15~11:40(2:25)晴れ 諏訪林道終点。電波塔群の一角、会津街道の峠ですぐ諏訪峠。昔の祠あり。藪化している道を辿り電波塔。奥に山あり、白髭山。尾根に出てテープ目安に小藪を尾根伝いに進む。境界石等を確認しながら進み鞍部より道らしきを進むも最後は登る人も少なく、藪化している急坂登り、平坦な頂の(白髭山)山頂。二等三角点で其処だけ少し刈り払われている。来た道を確認し道間違えをしつつも無事戻る。「番屋山」14:40~18:10(3:30)曇り 八十里越の新潟側の登山口吉ヶ平より入山。途中まで八十里越の林道と一緒に馬場跡石より別れ、林道から登山道となり間もなく雨ヶ池。鴨が飛び立つ。尾根沿いに立派なブナ林を眺めて進み、沢道分岐より急坂をゆっくり辿る。整備された道でゆるやかな尾根を進むと刈り払いされ展望の良い番屋山山頂。二等三角点、山々、ダム等の展望を満喫。高い山は雲隠れ。来たルートをブナ・ナラ等の林・池を楽しみ、馬場跡石まで戻る。天気は今一つだが時間あり、新潟側の八十里越を辿る。緩やかなトラバース道を進み、草丈が長靴でも大丈夫な道らしきを淡々と登り、リミット位に椿尾根標識石まで行き、さらにのぼり続けるため、ここより引き返す。夕日の眺め良いが、相変わらず虻には追い回されて戻る。天候不安のため、今回はここまで。

9/6(土)晴れ 新潟中部3山「唐松山」山頂 13:25「上権現堂山」同 15:10 11:05~16:30(5:25)手ノ又登

山口より周回。鯉養殖池のある登山口より、ブナ等の尾根を進み、滝の見える滝見台。粘土質の急斜面を夏の日差しに照らされ大汗をかきながら稜線分岐。一息入れ、ブナ林を経て尾根伝いに進む。西側の崩壊が進む四等三角点を経て(猫岩)山頂。真直ぐ進むが岩峰で足がかりなく、少し戻り迂回し先のルートに合流。さらに尾根を進み最奥の峰が唐松山。三角点あり、以前苦勞して登った毛猛山塊、越後三山等の山々、山間の集落の眺め良い。暑すぎるが好天に感謝。猫岩に針金と大きな鈴がつけられていることを慎重に確認して稜線分岐に戻る。西の尾根を登るが、久しぶりの山歩きで足がバテバテ。でもすぐ平坦な上権現堂山山頂。二等三角点で眺め良く鐘をついて、滑る登山道を慎重に下山。「坂戸山」18:10~19:55(1:45)公園に駐車し直登コースを進む。スタートから薄暗いが下山者3名に会う。段差のある階段は出発時についた両足にきく。満月ちかくの朧月に助けられ、ライトなしで坂戸山山頂。20 数年ぶりの山で面影あり。社・二等三角点・六日町の夜景・朧満月を楽しみ、ライトをつけ慎重に下山。途中開けた道はライトなくとも街明かりで歩けた。天候悪化のため今回はここまで。

9/13(土)晴れ新潟南部 3 山「飯士山」10:30~13:00(2:30)岩原スキー場より周回。リフト終点まで行くと案内表示あり、尾根伝いに滑りやすい粘土土の坂を進み、分岐を経て(南峰)。一旦下り上り返すと遠くからの山容の良い飯士山山頂。上信越国境の山々の眺めは上部は雲隠れだが良い。湯沢の街の眺めも良い。三角点あり。さらに奥に進むと西に峰あり、やせ尾根を慎重に下り進むと(西峰)。ここも展望よく、祠あり。飯士山に戻り、少し下りゴンドラ山頂へ。山頂に標高等表示あり(東峰)。ここからスキーコースに戻る。

・「三国峠」山頂 14:30、「三国山」同 15:05 14:05~15:50(1:45)三国トンネル新潟側登山口より往復。昔の街道道を清水等楽しみながらつづら折れの道を淡々と進み境界の三国峠。神社等あり。さらに木の階段が整備された道を陽光・風等を感じながら登り、平標分岐を経て三国山山頂。沼田の街、上信越の山々の眺めを楽しみ、一気に下山。雨の予報だったが天気にも恵まれた山歩き。「ワシズの会」の来福の山案内のため、今回はここまで。

9/20,21 新潟南部6山 20(土)晴れ「神楽ヶ峰」山頂 12:00「赤倉山」同 15:25 10:00~20:30(10:30)和田小屋口より往復。苗場山登山口よりかぐらスキー場を経て、岩岩の多い登山道を木道に助けられながら滑らないよう進む。下、中、上ノ芝を経て神楽ヶ峰山頂。基準石あり、湖等の眺めよい。一気に下り雷清水を経て鞍部より急坂を上り返し、湿原の一面草紅葉を眺めながら苗場山頂。ここまで人多し。木道を下り分岐を経て苗場神社を経て長野側へ。湿原の草紅葉・真っ赤なつつじの紅葉は見頃。昨年も来た人に会い、今年は紅葉が1週間以上早い。湿原を(龍ノ峰:三角点)を経て下り、上り返すと赤湯からの道と合流しすぐ赤倉山山頂。三角点あり、シラビソ、笹の中の山頂。帰り日暮れまでは厳しいが、紅葉の湿原、夕日等楽しみながら中ノ芝よりライトをつけ、石の滑りに注意し無事戻る。ライトを消すと満点の星空に大満足。

21(日)晴れ「伝説のハイカー編」「万太郎山」山頂 8:50、「オジカ沢ノ頭」同 10:30「一ノ倉岳」同 12:40「茂倉岳」同 13:00 5:50~16:05(10:15)吾策新道より縦走路を経て茂倉新道を下山する周回歩き。昨日の疲れを引き摺りながらも林道車止め手前より舗道の坂を進み登山口。尾根に出て、大ベタテノ頭、井戸小屋沢ノ頭を経て、怪物岩を回り、万太郎山山頂。山の上部が紅葉で見頃。晴天で谷川連峰の眺め、紅葉最高。尾根伝いに(大障子ノ頭、小障子ノ頭)を経てオジカ沢ノ頭山頂。急斜面の新潟側の紅葉は真っ赤でキレイ。岩細尾根を経て谷川岳。蟻のような人だからですすぐ前へ進む。岩場の眺めは圧倒的。尾根を進み急坂登ると一ノ倉山頂。さらに進み茂倉山頂。一息入れ、地元の人と山話。茂倉新道に入り、(矢場ノ頭)を経て木の根に苦勞しながら、ブナ林を楽しみ、若い人のペースで一気に下山。登山口より登り返して駐車場に戻る。2日間天候良く紅葉も良く最高。ただ、水不足でオジカまで笹露で凌ぐサバイバル状態の山歩き。下山しても水は半分も残りいい教訓。

新潟南部 5 山 9/27(土)晴れ「大源太山」山頂 11:45「清水峠」13:10「七ツ小屋山」山頂 13:55「武能岳」  
同 15:10 9:50~17:40(7:50)大源太登山口より周回。杉林・2度の渡渉を経て坂を上り始め、途中早立ち  
の人々が次々下りてくる。林道終点の駐車場は満杯で少し下に駐車するほど人気の山。尾根筋に出ると眺  
めよく、軽快に進み山容の美しい大源太山山頂。谷川連峰、巻機等の山々の眺めよく、紅葉も見頃。大勢  
の人が縦走路に向かう。南側の岩の斜面を安全ペースのワンゲルの高校生群に先に通させてもらい一気  
に縦走路まで進む。東側に進み、(冬路ノ頭)を経て荷物をデポし清水峠まで下る。昔の街道道を確認し登  
り返し合流点からすぐで七ツ小屋山山頂。展望よいが風強し。すぐ縦走路を西へ。なだらかな道を淡々と  
進み、帰路の分岐を経て蓬ヒュッテ。少し登り荷物をデポし空身で急坂を経て武能岳山頂。先週登った谷  
川連峰の山々の眺めと紅葉楽しみ、戻る。蓬ヒュッテはテント等大賑わい。縦走路より謙信ゆかりの道へ下  
る。所々笹が覆う登山道ながら尾根筋道で迷わず。(シシゴヤの頭)を経てつづら折れの道をブナ林を楽し  
みながら下り、大源太分岐を経て1度の渡渉を経て戻る。

・9/28(日)「阿寺山」6:00~13:00(7:00)広堀登山口より往復。沢歩きで目印が見当たらず上流へ。荒れ  
た川で左岸のコンクリート堤を進み堰堤より目印出て安心して進む。だが、目印は、急坂を下り再び川原歩  
き。少し行くと尾根への目印。坂を上り進むと再び枯れた沢に出て、岩岩を登って行く。目印なく、不安にな  
ったころ沢水が現れ、尾根への道・目印を確認でき安堵。沢水で一息入れ、急坂を進むと見事なブナ林で  
見とれつつ急坂を進む。またしばらく登りピーク着。一旦下りトラバースして道らしきを掻き分け進むと阿寺  
山山頂。斜めに傾いた三角点あり、中ノ岳、駒ヶ岳の眺めよい。一休み後ルートに戻り先へ進む。幾つか  
の池の湿地帯を経て日差しの強い中、登って五竜岳山頂。縦走のパーティーと挨拶。法螺貝の鳴る岩場  
まで進み、山伏装束の祈祷を聞きつつ、下山。途中の湿原でギンヤンマ(トンボ)を確認し、ブナ林、沢歩  
きを楽しみ戻る。2日とも天候・紅葉に恵まれ最高。ただ、御岳山は無念、合掌。

10/4,5 新潟南部 5 山 10/4(土)曇り「菱ヶ岳」8:45~9:50(1:05)ブナ林を楽しみながら、沢、湿地帯、急  
坂を経て菱ヶ岳山頂。一等三角点、神社あり、曇りで視界なし。ブナ林を楽しみながら戻る。「関田峠」10:45  
(車道にあり、新潟・長野を結ぶ峠)「黒倉山」山頂 11:30「鍋倉山」同 11:45 10:50~12:45(1:55)菱ヶ岳  
より続く信越トレイルを関田峠より往復。なだらかな整備された道をブナ林を楽しみ、軽快に進んで黒倉山  
山頂。新潟側の高原の眺めよい。トレイルを歩く人少しあり。さらに下り上り返すと鍋倉山山頂。三角点、祠  
あり。少し行くと長野側の眺め良い。天候が今にも泣き出しそうのため、すぐ来たルートを急ぎ足で下る。関  
田峠に着くと雨が降り出す。

・10/5(日)曇り雨 「牛ヶ岳」5:25~10:05(4:40)井戸尾根コースを往復。昨夜雨で心配したが、朝は曇り  
なので桜坂口駐車場手前より出発。急ぎ足で雨が降らないうち行けるとこまでと、先行にパーティー等を追  
い抜き一気に5合目の立派なブナ林群。中腹の紅葉を楽しみながら進むと、風の強い8合目、さらに階段  
を進むと(ニセ巻機山:9合目)。黄金の草紅葉の草原に迎えられれる。次の避難小屋は大勢の人々。さら  
に笹原の急坂進むと20数年ぶりの巻機山山頂。風強し。池塘、湿地帯、木道、草紅葉を眺めながら進み、  
坂を上ると牛ヶ岳山頂。三角点あり、さらに奥は道あるが草藪状態。視界乏しい。強風のため、すぐ下山。  
木道、草紅葉を楽しみ、巻機、小屋を経て、急ぎ足で重いリュックの練習組等(?)を抜き去り、ブナ林群に感  
動して軽快に下る。雨降り出したが小降りの中戻る。台風等で天候今一つ。

やまゆき会例会 白山縦走 10/11,12 晴れ「六万山」1山 10/11 5:55~16:10(10:15)10/12 7:15~  
12:10(4:55)一里野口 加賀禅定道より室堂(18km)、室堂より観光新道、白山禅定道経て一ノ瀬。S氏の  
車でスキー場上の登山口まで行き、パワースポットの檜倉まで3人で進み、あとはI氏と共に歩く。尾根筋を

ブナ等の紅葉を眺めながら進み、ハライ谷からの合流点のしかり場。先行で2人の若者あり。三角点のある長倉山を経て避難小屋で休憩。奥長倉山を経て急坂をゆっくり進み美女坂の頭。さらに松等樹林帯を登り百四丈滝の展望台で展望楽しむ。木道を進み、笹原の中に、二等三角点の(2047 峰)。青空天井でよい天気。加賀室跡、天池で先行2人はここまでと寛いでいる。尾根をトラバースに進み、昼食。笹原が風に揺れ、まるで生き物のよう。次は、難関の長坂。ゆっくり進み四ツ塚山。岩間新道の眺め良い。七倉の辻を経て、大汝山は迂回路を回り中宮道分岐。後は下って室堂。砂防新道を登ったS氏と合流。小宴会し泊まる。地元のお巡りさん、宿の受付の方にも心配されたが、無事加賀禅定道を踏破。台風の影響、体調等を考え翌日の中宮道(20km)は中止。来年再度トライとI氏。

10/12 朝飯前にご来光のため、単身で月明かりのムーンウォーク歩き。ライトを点けた先行者を次々追い抜き、御前峰山頂。さらに人のいない中、池まで下り、上り返して岩岩を進み、剣ヶ峰山頂。御岳の噴煙が見え、合掌。日の出まで待てず、岩岩を下り途中でご来光を拝む。池を回り、残雪・少し厚めの氷を確認し室堂に戻る(4:45~6:20(1:35))。S氏とI氏は日の出等の写真撮影。朝食後3人で観光新道下る。途中、別当からのシャトルバス代節約も兼ね白山禅定道を下る。大きな岩岩とその上の巨木檜等、見頃の紅葉、やせ尾根の急階段に圧倒され感嘆の声を出しながら下る。展望よく、三角点のある(指尾)を経て、さらに下り、見事なブナ林帯を経て少し登ると六万山山頂。樹林帯の中の山頂で静か。ブナ林の急坂を下り、林道を横切り、音のする程の湧き水を経て、禅定道登山口。舗道を経て一ノ瀬駐車場(S氏の車で出発した一里野に黒間の回収に戻る)。S氏とI氏に感謝

遠征・来春5月例会の下見 白山連峰

・10/18(土)3山「二ノ峰」山頂 14:15「三ノ峰」同 14:55「別山」15:55 10:40~20:45(10:05)石徹白口より美濃禅定道を往復(38km)。晴れ 石段を登りすぐ石徹白大杉。巨木でヤドリ木もあり。ブナ林を登り山が遠望できる平坦地。少し行くと神鳩避難小屋。水場あり、宿泊可。平坦なブナ林を進み、坂を登ると(銚子ヶ峰)。三角点あり、春先に見えた雪山によく似たどおり着く。展望良く昼時で登山者もここまでは多い。尾根伝いに(一ノ峰)を経て、二ノ峰山頂。三角点は笹の中。さらに急坂を登ると三ノ峰避難小屋。2人先客。少し登ると三ノ峰山頂。ここでようやく白山主峰が見えて来た。別山は遠くに見え、一旦下り長い急な登り坂を進むと神社の上に別山山頂。二等三角点。南側が岩山の優美な山で、眺望良い。さらに(御舎利山)まで進み、南竜ヶ馬場の小屋を確認して下山。急ぎ足で日没と競争し、三ノ峰で日没。同避難小屋には完全防寒の4名の宿泊者。これから下山と驚かれながらも下る。一ノ峰でライトをつけ、銚子ヶ峰で休憩し、ライトを消すと満天の星と街明かりが美しい。さらに淡々と下り、神鳩避難小屋。1人の宿泊者を起こしてしまった。大杉・石段を経て登山口。駐車場は来た時満車で奥の下ったところに止めたが、宿泊者以外の車なく銚子ヶ峰までの日帰り登山者が大半の様。

・10/19(日)白山北部縦走路「野谷荘司山」山頂 9:00「妙法山」同 10:15 5:40~13:40(8:00)朝暗く登山口不明でやむなく白山スーパー林道馬狩ゲート口より周回。三方岩ルートで急坂のブナ林を普通に歩いていると地元の人が猛スピードで追い抜いて行きビックリ。樹齢300年のブナの小路を経て尾根を進むと四等三角点の(1586 峰)。さらに巨大な岩峰の脇を抜けて進むと以前訪れた「三方岩」。初冠雪の白山、笈等の眺め良い。縦走路に戻り進むと岩峰ピークの(飛驒岩)岩岩、絶壁の眺め良い。なだらかな尾根を進み、(馬狩荘司山)を経て鶴平新道と合流。少し登ると野谷荘司山山頂。二等三角点、御嶽山の噴煙見え合掌。尾根伝いにアップダウンを繰り返して急坂を登ると妙法山山頂。三角点あり、白山連峰、中宮道の山並みが見え、好天に大満足。下りは湿原で昼食する人等多くの登山者に会う。分岐より鶴平新道のやせ尾根を下る。日差し強く感じるが心地よい。(赤頭山)を経て、急坂をブナの紅葉等楽しみながら一気に登山口。舗道を歩いて坂を登りゲート口に戻る。2日間とも晴天でまたとない山歩き。紅葉・ブナ林・白山連山を満喫

10/25(土)長野北1山「金山」山頂 11:50、焼山 同 13:30 9:05~17:25(8:20)小谷温泉金山登山口より往復。ブナの巨木を眺めつつ、つづら折れの坂を進み、湧水で一息。ブナ帯を進むと雨飾山の雄姿が望める。ガレバ、溝地を進み、笹原とシラビソ帯へ。視界が開けた尾根に出て進むと(天狗原山)。さらに一旦下り登り返し進むと金山山頂。三角点あり、焼山、火打、妙高等の山々、日本海の眺めがよい。青天で風なく心地よい。山頂で休息していた地元のカップルに焼山へ登れるのか尋ねるとルートがあり、遠目にも道が続いている。過去噴火口の蒸気吹き出しが活発で近づけず、登れない山と思っていた山。千載一隅のチャンスと考えるも、御嶽山の例もあり、行けるところまでと刈り払い整備された道を一気に下り、富士見峠。富士が眺められた。少し下り、笹倉温泉からのルートと合流し焼山へ。泊岩で新潟県の注意と避難場所可能を確認しメットを借りて、火山岩の道をピンクテープに助けられながら進む。霜柱を踏みしめ、尾根に出て、少し登ると長年諦めていた待望の焼山山頂。二等三角点。眺望は同じく最高。火打縦走ルート降り口の先から蒸気が出ており、直ぐ下山。急ぎ足で泊岩まで行き一息。富士見峠で安堵。次に来たとき残した裏金山へ。登山道より笹藪のないザレバと笹藪の境界を進み、低い笹原の(裏金山)山頂。戻らずに笹の薄いところを選びながら、下山方向に藪漕ぎし登山道に戻る。急坂登り金山に戻り、遅い食事。気を引き締め一気に下山と少し進むと、目の前を鳩のようなブクブクの一羽の鳥が歩き出す。一瞬何か戸惑ったが、白い毛に生え変わり始めの雷鳥でビックリ。カメラに収めると悠々のポーズ。北アルプスは遥かに離れているがいても不思議でないのかな?。後は日没を意識して急ぎ足で下山。5時前日没。湧水・ブナの巨木・紅葉を楽しみ。薄暮に戻る。紅葉ドライブのため、今回はここまで。

10/31(金)11/1(土)佐渡4山 10/31 休み レンタカーで山巡り。「経塚山」山頂まで林道あり、途中の塚で駐車し往復(0:10)、一等三角点、展望よい晴れ。「ドンデン山」山頂 11:35「金剛山」同 13:35「壇特山」同 14:35 11:20~17:40(6:20)ドンデン山荘より長距離往復。山荘よりすぐ(霧立山:三角点)。さらに進むと連峰ピークの尻立山(ドンデン山)で眺めよい。一旦下り進むと(タタラ峰:三角点)、さらにすぐ(論天山)。尾根伝いに進み(芝尻山)。アップダウンを繰り返す(雪畑山:三角点)を経て金剛山分岐。下り、坂を上ると金剛山山頂。海・山・紅葉の展望よい。神社、三角点あり。分岐へ戻り尾根を進み、作業道に出て進むと壇特山入口。すぐに山頂。三角点あり、木株に上ると展望あり。大佐渡石名天然杉を散策し尾根道を急ぎ足で戻り、途中、間峰の標示あり、溝道の急坂を直登し1ピークは藪の中、間峰と思いきやはるか先が間峰。薄暗い中、ムーンウォークで戻る。翌日の下見するが、道不明。

・11/1 4:05~13:15(9:10)山毛櫨ガ平山を目指したが、今一步先まで進まず敗退。準備不足を露呈。林道入り口近くから舗装仕立てで通行止め。歌見集落より暗い内から歩く。第一堰堤を経て、草藪の林道を心配しながら、偵察と割り切り進む。舗道現れ間もなく林道終点。まだ暗いが辺りに道らしきなく、丈の高い草藪状態。やむなく薄いところ探し林業目印のテープを頼りに急坂の藪を体力を消耗しつつ、尾根に。さらに尾根伝いに檜等の藪を進み、テープの多い本道に出合い一安心。辿って進むと林道に出る。奥の高い山を目指して林道進むとピンクテープあり、藪漕ぎしながら進み東峰の(井坪山)。鞍部より上り返し杉林の平坦地。さらに先に峰が見えたが、体力限界で一休み・食事。藪を下り林道に出て少し奥に進むが、高い山はないと引き返す。林道下り千本杉脇の木道より入り(862 峰:三角点)。来た道から本道経由で戻る。後で奥に見えた山が山毛櫨ガ平山で、林道ももう少し先まで行くと登山口標示あることを知りがっかり。

前回で1900山通過。後の連休は雨で休止

11/15,16 日本海側天候不良のため、遠征 長野中南部3山

・11/15(土)晴れ「霧訪山」14:50~17:20(2:30)整備された茸山で松林の森を登り、尾根伝いに進むと霧

訪山山頂。二等三角点あり、塩尻の街、山々の眺めよい。日本中央分水嶺の道を稜線沿いに進み、(たきあらしの峰)を経て案内のあった(大芝山:平坦な山))まで行き、同じルートに戻る。霧訪山では、薄暮近く街明かりがキレイ。ゆっくり足元を確認し下山。

・11/16(日)曇り 長野南「蛇峠山」5:50~6:50(1:00) 治部坂峠近くの別荘地奥のゲート口より往復。急坂登り、舗道等を経て電波塔群、測候所を経て、笹をかき分け蛇峠山山頂。二等三角点、展望台より山々の眺め楽しみ、日の出を拝み戻る。

「大川入山」7:10~12:20(5:10) 同じ治部坂峠向いの登山口より往復。整備された登山道を軽快に進むと(横岳:三角点あり)。アップダウンを繰り返し、少し雪のある急坂を登ると大川入山頂。地元の先客おり、教えてもらい、富士・白山・南ア・中央ア等の眺め楽しむ。二等三角点。先の山を目指す。下って登り返すと尾根の直角カーブ。この先へと笹藪にテープを見つけ、藪漕ぎ開始。テープ等頼りに尾根伝いに進み、3Pで帰りのタイムアップ(1902 峰)。先に目指す恩田大川入山が見えるが同じ藪漕ぎのため、断念し下山。来た藪を戻り、登山道に出て安堵。大川入山に戻ると天候が晴れ、北ア、御嶽等の眺望も良く見え、霧氷・樹氷もキレイ。下りは子供から若者、年配者まで様々な人々と挨拶。人気の山を実感。

11/15,16 日本海側天候不良のため、遠征 長野中南部3山

・11/15(土)晴れ「霧訪山」14:50~17:20(2:30) 整備された茸山で松林の森を登り、尾根伝いに進むと霧訪山山頂。二等三角点あり、塩尻の街、山々の眺めよい。日本中央分水嶺の道を稜線沿いに進み、(たきあらしの峰)を経て案内のあった(大芝山:平坦な山))まで行き、同じルートに戻る。霧訪山では、薄暮近く街明かりがキレイ。ゆっくり足元を確認し下山。

・11/16(日)曇り 長野南「蛇峠山」5:50~6:50(1:00) 治部坂峠近くの別荘地奥のゲート口より往復。急坂登り、舗道等を経て電波塔群、測候所を経て、笹をかき分け蛇峠山山頂。二等三角点、展望台より山々の眺め楽しみ、日の出を拝み戻る。

「大川入山」7:10~12:20(5:10) 同じ治部坂峠向いの登山口より往復。整備された登山道を軽快に進むと(横岳:三角点あり)。アップダウンを繰り返し、少し雪のある急坂を登ると大川入山頂。地元の先客おり、教えてもらい、富士・白山・南ア・中央ア等の眺め楽しむ。二等三角点。先の山を目指す。下って登り返すと尾根の直角カーブ。この先へと笹藪にテープを見つけ、藪漕ぎ開始。テープ等頼りに尾根伝いに進み、3Pで帰りのタイムアップ(1902 峰)。先に目指す恩田大川入山が見えるが同じ藪漕ぎのため、断念し下山。来た藪を戻り、登山道に出て安堵。大川入山に戻ると天候が晴れ、北ア、御嶽等の眺望も良く見え、霧氷・樹氷もキレイ。下りは子供から若者、年配者まで様々な人々と挨拶。人気の山を実感。

11/22(土)~24(月)3連休 南アルプス深南部へ遠征。静岡西2山 晴れ 11/22「不動岳」山頂 15:40、11/23「丸盆岳」同 7:45 11:05~18:20(7:15)5:00~14:30(9:30) 戸中山林道ゲートに駐車し林道往復・周回。出発が遅れて遅い出発。紅葉、山々を眺めながら好天で軽快に林道を進む。黒法師登山口を過ぎ少し進むと不動岳登山口。テント3張。急坂をゆっくり進み、尾根、崩壊地の修復作業小屋を経て尾根を進むと踊り場。さらに急坂を進むと三山展望平。脇に笹が出てきて、急坂を登ると(鎌崩岳)山頂。樹間より眺め良い。時間節約のため、荷物デポし空身で笹を掻き分け一旦下り、腰高位の笹原を泳ぐように進み急坂を登ると念願の不動岳山頂。黒法師等山々の眺め、青空を楽しむ。時間が遅いので下りを急ぐ。鎌崩岳でリュックを背負い、坂道を一気に下る。踊り場で薄暗く道不明で点灯。さらに淡々と下る。作業小屋で進路不明に。已む無く荷揚げカーゴ線沿いの道を下り、林道に出て一安心。下り進むと登山口でテント泊の人が焚き火の宴会模様。挨拶し山情報交換。熱燗を一口頂く。さらに下り、黒法師登山口より下の整備された作業小屋泊。満点の星空を楽しむ。地震で目が覚めたが、寒くない夜に感謝。

・11/23 暗いうちからスタート。黒法師、丸盆登山口より尾根に出て尾根歩き。いくつかの踊り場を経て等線尾根の分岐に出ると朝日が心地よい。丸盆方面へ進み、ここも荷物をデポし空身で笹の急斜面を下り、後は、笹の丘を道らしきを探しながら進む。急坂を経て丸盆岳山頂。昨日の不動岳等山々の眺めと朝日を堪能。淡々と戻るも力が出ない。リュックを背負うと尚更で食事すると復活。急坂を進むと樹林の中の一等三角点の黒法師岳山頂。2度目ですぐ次へ。西向こうの山を目指す。急坂下ると途中縦走の人に会い情報交換。笹原を分けて進み、急坂登ると2年前に登ったバラ谷の頭。富士山・黒法師等山々の眺め、青空が最高。別ルートから来た若者と挨拶し情報交換。ここから引き返し急坂下り進むと(上西平山)。過去登った旧ルートを下る。廃道のようなが、所々古いテープ等あり。2沢の合流点まで下り過ぎ、急坂を登り直すと林道終点。一安心と思いきやここからが試練続き。山の上部からの崩壊で3箇所が下まで崩壊。何とか道を探りトラバースで越えたが、ヒヤヒヤもの。カモシカに会うと間もなく、支線より林道本線に出て安堵。一気に下り無事戻る。ゲートで地元の警察の人の巡回に合い挨拶。道と温泉情報に感謝。2日共晴天で久しぶりに山歩きをしたという感触で大満足。

・11/24 長野南部1山リベンジ。「恩田大川入山(三階山)」6:20~12:35(6:15)アララギスキー上よりリフト終点まで行き、林業境界テープ・杭等を目安に尾根進む。巨大岩岩が立ちはだかり、右より周り込み無事通過すると遊歩道出会い、人心地。曇りの天候ながら遊歩道をルンルン気分で進むと前回入山したL字カーブ分岐。雨具をつけいざ笹藪突入。前回のところまで淡々と進む。尾根伝いに笹を潜り、かき分け進む。展望の良い笹原等幾つかのアップダウンを繰り返し、恩田大川入山の最高点、さらに先の三角点を目指す。広くて三角点探しは30分でも見つからず、手袋もぐっしり濡れ、急ぎ足で来たルートに戻る。1箇所勢いで間違えそうになったが、尾根伝いに進み、遊歩道に出て安堵。大川入山から下る若者に挨拶して、一気に遊歩道下る。最終地点は白樺林がキレイ。スキー場へ出て駆け足で群れる猿を追い払い戻る。

11/30(日) 静岡北部1山「青蘆山」4:45~13:45(9:00) 土曜天候勝れず大遠征。車で10時間。畑薙ダムゲートより往復。帰りもあり、暗いうちに出発。畑薙大吊橋を過ぎ、進むと登山口。始め分からず先まで進み、戻り再確認。鉄塔路と一緒にだが、案内板の文字は消えかけ不明。急坂、ガレバを慎重に進み、大きくトラバースすると沢の音。と思ううちに池の平。幕営地で湧き水がおいしい。テープを頼りに道が判然としない樹林の中を進む。まもなく赤崩の大崩壊地。崩壊地を覗き込みながら、はるか先に見える青蘆へと進む。さらに樹林の中を斜め横にテープに沿って進む。目印テープがないと迷子必定。尾根に出て、幾つかピークを過ぎ、急坂をゆっくり着実に進むと、平坦な樹林帯。テープがないと戻れる自信がない迷路。案内に従い薄暗い木立を進むと明るいところに出てさらに進むと念願の青蘆山山頂。二等三角点。樹林の中から雪を被る赤石・荒川連峰が望まれ、陽光もあり大満足。次の山を目指す、樹林帯で方向が迷い易く、時間もゆったり取れず、樹木込み入り急いで進める尾根でないため、山伏分岐までで戻る。来たルートを軽快に歩く。整備してくれている私有林所有者に感謝。池ノ平で一息入れ一気に林道まで下る。山では誰にも会わず。林道は小春日和で、枯葉を積む人、狩猟の声、湖の漁の船等を眺めながら戻る。この山はヤブではないが、好天でも歩くのに注意が必要な自然豊かな山を実感。

年末年始大遠征。総走行距離 2500km。紀伊半島南部 21 山 12/27~1/2(7 日間)

その 1 年末 12/27~12/30 三重・和歌山

・12/27(土) 晴れ「経ヶ峰」9:45~11:20(1:35) 細野登山口より往復。植林地を経て尾根に出るとすぐ経ヶ峰山頂。冬風、三角点、陽光、山々、海の眺めよい。登山者あり急ぎ足で下山。

「笠取山」12:20~13:25(1:05) 車で山頂近くまで行き基地・電波塔等を散策。風強し。

「西教山」14:05~15:30(1:25) 登山口分からず、地元の人に登山口の遊歩道近くまで道案内してもらい、

遊歩道を往復。地元の人に感謝。始点/23 の表示、鉄塔巡視路に助けられ、急ぎ足ですぐ西教山山頂。二等三角点、展望台より今日歩いた山々、伊賀の街等展望楽しみ急ぎ下山。

12/28(日)晴れのち曇り、今年始め懸案だった山々を歩く。「高峰山」6:50~12:55(6:05)矢ノ川林道崩壊で通行止めの表示あり(ゲートなし)。R42 千ジソ橋口より林道歩き。岩岩と溪谷と一部紅葉を眺め歩き、蔭谷橋にピンクテープ沢山あり、作業道らしきを上へと、テープ等便りに進み、砂防堰堤横切り、急斜面の緑の苔岩(キレイ)の急坂から、獣道・伐採道を進み、先の林道に出会う。すぐ 8Kの表示あり、かなり短縮。すぐ林道終点(約 10K)の矢ノ川峠。尾根沿いに急坂進むと(川原小屋の峰:小川山)。一旦下り、なだらかに登り返すと高峰山山頂。一等三角点、海、山々の眺め良い。食事後一気に下る。林道を行き過ぎ 7Kより下のピンクテープから急坂を一気に下り、下の林道。さらに下ると登り口とした橋に辿りつき、安堵し戻る。

「保色山」13:35~15:50(2:15)道のない山との案内に大又林道ゲートより急ぎ足で林道を進み、大又隧道。テープ表示あり、急坂を上り尾根へ。さらに尾根を進むと笹等ヤブらしき名残あり。淡々と道らしきを進むと大きな林道に出会う。少し行くと山の案内あり。すぐ保色山山頂。三角点、いくつかの表示板あり、ヤブ山ではなさそうだが・・。雨がパラつき始め、来た道を急ぎ足で戻る。

12/29(月)雨後晴れ「大雲取山」7:00~7:05(0:05)小雨 大雲取林道を終点まで行くとすぐ山頂で、電波等あり。視界なく残念。

(添ノ川峰)11:00~15:00(4:00)鳥屋ノ森山目指し地元の人に直美登山口を教えてもらい入山。尾根脇の道を進むもテープ等見失い尾根をさまよう。はるか先に山あり、シダのヤブ丘に登るが、先もヤブでは無理とあきらめ、尾根を行ったり来たりし、何も見つからず尾根ピークに四等三角点(添ノ川)確認し戻る。

「峯ノ山」15:35~17:30(1:55)すぐ近くのルートでと峯集落より入山。急斜面を進む。下に道らしきあるが、萱、茨の大藪。騙し騙し登り、舗道に出て一安心。急ぎ足で進み、登山口らしきより急斜面登ると、峯ノ山山頂。電波等、一等三角点あるも、樹林の中。急ぎ下り、すぐ向かいの同じような高さの山に急坂より登る。無名峰(470m)。尾根伝いに舗道に出て、急ぎ足で下る。登りの舗道より違う下のルート下るが、ここも同じ茨のヤブでシダヤブも時に背丈以上。悪戦苦闘して何とか駐車地に薄暮に戻る。

12/30(火)晴れ「鳥屋ノ森山」6:25~10:40(4:15)直美登山口より、昨日のリベンジ。山用鎌、ヤブ用装備モードで急ぎ足で進み、昨日のテープ最終確認まで行き、クランクのシダヤブ丘に昨日より落ちて出て、道らしきところをヤブ漕ぎ、鎌でヤブシダを払い、下るとヤブなくなり、一安心。ただ、踏み跡らしきなく、急斜面を慎重に登り、尾根の上に出ると見失ったテープあり、尾根伝いに巨木の常緑樹の森を進み、平坦な鳥屋ノ森山頂。二等三角点、山々の眺め、楽しむ。食事後、尾根伝いに陽光の木漏れ日、巨木の森を楽しみながら進む。尾根の先に来たルートと違うテープのルートあり、急坂・ロープ等経て、トラバース気味に整備された道を進むと、急坂手前に合流。さらに先は、シダのヤブ丘進まずとも、立派な側道ルート(テープもあり)あり、前日に見失ったところに出て合点。広い樹林帯で下にあったテープを見落としたことに気づき唾然として戻る。

近くの(重畳山:11:05~11:25 三角点、樹林の中)に寄る。

「大森山」13:00~16:15(3:15)清流脇に駐車し、急坂の植林地等から尾根に出て、淡々と進み大森山山頂。なだらかな山。来たルートを着実に戻り、清流を楽しみつつ戻る。

「高尾山」22:20~22:40(0:20)夕食後、登山口偵察予定が、上に明かり見え、車で上まで上がった。駐車場より歩くとすぐ高尾山山頂。三角点あり。田辺の夜景、半月の月等風強い中、展望を楽しむ

12/31(水)晴れ「三星山」7:15~9:55(2:40)古屋谷地区水源地より周回。地元の人に道を教えてもらい、水源地近くに駐車し、谷筋をコルまで行き、大きな岩の急斜面を慎重に登り、さらに進むと三星山山頂。三角点あり、海、山々、朝日等の眺めを楽しむ。コルまで下り、反対の尾根を進み、竜神宮を経て八幡社。竜



神山山頂。四等三角点、展望よい。、神社・祠が同居。シダ・常緑樹の林をコルまで戻り下山。

「真妻山」10:00～11:35(1:35)大滝川公園グランドより、入山。テープあるが、林業道の急坂辿り、尾根に出て、急坂進むと真妻山山頂。一等三角点、海・山々の眺めは、晴天でこの上ない。芝生の丘の山頂でしばしくつろぐ。下りも急坂を一気に下る。

「重山」14:45～15:50(1:05)地元の人に登山口教えてもらい、神谷口より往復。山頂は、社あり、二等三角点。シダ生い茂る常緑樹の森。風強し。

平成26年度終了。 年間 253 山、山入り 85 日 累計 1944 山。